17. 夜の旅章(アル・イスラーゥ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

使徒のためのアッラーの励ましと、明らかな印の数々と勝利や盤石さの吉報による支援。

説明:

(1)**かれ**以外のいかなる者にもない力を備えたアッラーは、崇高かつ偉大である。**かれ**はその僕ムハンマドを、その魂と身体と共に覚醒した状態で、禁忌のあるマスジドからエルサレムのマスジドへと夜の旅をさせたお方。**われら**はエルサレムのマスジドの周囲を果実や作物、預言者たちの住まいによって祝福した。夜の旅は、かれがアッラーの御力を示す、**かれ**の印を見せるためだった。**かれ**は全聴で何も聞き逃すことがなく、全視で何も隠れることが出来ないお方。

(2)**われら**はムーサーにトーラー(律法)を授け、それをイスラーイールの子孫への導きとした。そしてかれらに言った。「**われ**以外を、あなたがたの諸事を任せる委任者としてはならない。**われ**のみに委ねよ。」

(3)あなたがたはヌーフと共に、**われら**が洪水による溺死から救うという、恩恵を授けた者たちの子孫である。この恩恵を思い出し、アッラーだけを崇拝し、**かれ**に服従することで、**かれ**に感謝せよ。そこにおいてヌーフを見習うのだ。かれはアッラーによく感謝する者だった。

(4)**われら**はトーラー(律法)の中でイスラーイールの子孫に、かれらが罪と驕りによって必ずや地上で二度、悪を働くことを告げた。そしてかれらが過度の不正と侵害によって、人々を抑圧するということを。

(5)かれらによる最初の悪が起こった時、**われら**は偉大な力を備えた僕たちによって、かれらを制圧させた。かれらは殺害され、追放され、国々をさまよい、その先々で悪を行った。アッラーのその約束は、絶対に起こることになっていた。

(6)イスラーイールの子孫よ、あなたがたがアッラーに悔悟した後、**われら**はあなたがたを制圧した者たちに対する勝利をあなたがたに授け、国家を与えた。財産の喪失後に財産を、子供たちの捕囚後に子供を増やしてやり、敵よりも多勢にしてやった。

(7)イスラーイールの子孫よ、あなたがたがよい行いを望まれた形でするなら、あなたがたにはその報いがある。アッラーはあなたがたの行いなど、必要としていない。しかし悪い行いをするならば、あなたがたにはその罰がある。あなたがたの善行がアッラーを益することも、悪行が**かれ**を害することもない。あなたがたによる二度目の悪が起こった時、**われら**は敵にあなたがたを制圧させよう。かれらはあなたがたを辱め、あなたがたの顔には苦々しさが表れる。かれらはあなたがたに諸々の屈辱を与え、エルサレムに入城して最初の時のように破壊し、制圧した国々を完全に壊滅させる。

本諸節の功徳:

●マスジドはムスリムにとっての崇拝の場であるから、「エルサレムのマスジド」という表現は、それがイスラームの管理下にあることを示す。
●感謝と、感謝深い預言者・使徒たちを模範とすることの徳。
●悪を行う者たちに、それを阻止する者を遣わすのは、改善のためのアッラーの英知と慣わしである。
●イスラーム共同体に対する、罪への警告。それはイスラーイールの子孫に起こったようなことが起こらないようにするためであり、アッラーの慣わしが変わることはない。

سُورَةُ الإِسْرَاءِ

ترتيبها ١٧ — آياتها ١١١

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سُبْحَٰنَ ٱلَّذِىٓ أَسْرَىٰ بِعَبْدِهِۦ لَيْلًا مِّنَ ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ إِلَى
ٱلْمَسْجِدِ ٱلْأَقْصَا ٱلَّذِى بَٰرَكْنَا حَوْلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنْ ءَايَٰتِنَآ ۚ إِنَّهُۥ
هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْبَصِيرُ ﴿١﴾ وَءَاتَيْنَا مُوسَى ٱلْكِتَٰبَ وَجَعَلْنَٰهُ
هُدًى لِّبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ أَلَّا تَتَّخِذُوا۟ مِن دُونِى وَكِيلًا ﴿٢﴾
ذُرِّيَّةَ مَنْ حَمَلْنَا مَعَ نُوحٍ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ عَبْدًا شَكُورًا ﴿٣﴾
وَقَضَيْنَآ إِلَىٰ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ فِى ٱلْكِتَٰبِ لَتُفْسِدُنَّ فِى ٱلْأَرْضِ
مَرَّتَيْنِ وَلَتَعْلُنَّ عُلُوًّا كَبِيرًا ﴿٤﴾ فَإِذَا جَآءَ وَعْدُ أُولَىٰهُمَا
بَعَثْنَا عَلَيْكُمْ عِبَادًا لَّنَآ أُو۟لِى بَأْسٍ شَدِيدٍ فَجَاسُوا۟ خِلَٰلَ
ٱلدِّيَارِ ۚ وَكَانَ وَعْدًا مَّفْعُولًا ﴿٥﴾ ثُمَّ رَدَدْنَا لَكُمُ ٱلْكَرَّةَ
عَلَيْهِمْ وَأَمْدَدْنَٰكُم بِأَمْوَٰلٍ وَبَنِينَ وَجَعَلْنَٰكُمْ أَكْثَرَ نَفِيرًا
﴿٦﴾ إِنْ أَحْسَنتُمْ أَحْسَنتُمْ لِأَنفُسِكُمْ ۖ وَإِنْ أَسَأْتُمْ فَلَهَا ۚ فَإِذَا
جَآءَ وَعْدُ ٱلْءَاخِرَةِ لِيَسُۥٓـُٔوا۟ وُجُوهَكُمْ وَلِيَدْخُلُوا۟ ٱلْمَسْجِدَ
كَمَا دَخَلُوهُ أَوَّلَ مَرَّةٍ وَلِيُتَبِّرُوا۟ مَا عَلَوْا۟ تَتْبِيرًا ﴿٧﴾

الجزء ١٥ الحزب ٢٩

عَسَىٰ رَبُّكُمْ أَن يَرْحَمَكُمْ ۚ وَإِنْ عُدتُّمْ عُدْنَا ۘ وَجَعَلْنَا جَهَنَّمَ لِلْكَافِرِينَ
حَصِيرًا ﴿٨﴾ إِنَّ هَٰذَا الْقُرْآنَ يَهْدِي لِلَّتِي هِيَ أَقْوَمُ وَيُبَشِّرُ
الْمُؤْمِنِينَ الَّذِينَ يَعْمَلُونَ الصَّالِحَاتِ أَنَّ لَهُمْ أَجْرًا كَبِيرًا ﴿٩﴾
وَأَنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ أَعْتَدْنَا لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٠﴾
وَيَدْعُ الْإِنسَانُ بِالشَّرِّ دُعَاءَهُ بِالْخَيْرِ ۖ وَكَانَ الْإِنسَانُ عَجُولًا ﴿١١﴾
وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ آيَتَيْنِ ۖ فَمَحَوْنَا آيَةَ اللَّيْلِ وَجَعَلْنَا آيَةَ
النَّهَارِ مُبْصِرَةً لِّتَبْتَغُوا فَضْلًا مِّن رَّبِّكُمْ وَلِتَعْلَمُوا عَدَدَ
السِّنِينَ وَالْحِسَابَ ۚ وَكُلَّ شَيْءٍ فَصَّلْنَاهُ تَفْصِيلًا ﴿١٢﴾ وَكُلَّ
إِنسَانٍ أَلْزَمْنَاهُ طَائِرَهُ فِي عُنُقِهِ ۖ وَنُخْرِجُ لَهُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ كِتَابًا
يَلْقَاهُ مَنشُورًا ﴿١٣﴾ اقْرَأْ كِتَابَكَ كَفَىٰ بِنَفْسِكَ الْيَوْمَ عَلَيْكَ حَسِيبًا
﴿١٤﴾ مَّنِ اهْتَدَىٰ فَإِنَّمَا يَهْتَدِي لِنَفْسِهِ ۖ وَمَن ضَلَّ فَإِنَّمَا يَضِلُّ
عَلَيْهَا ۚ وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ۗ وَمَا كُنَّا مُعَذِّبِينَ حَتَّىٰ نَبْعَثَ
رَسُولًا ﴿١٥﴾ وَإِذَا أَرَدْنَا أَن نُّهْلِكَ قَرْيَةً أَمَرْنَا مُتْرَفِيهَا فَفَسَقُوا فِيهَا
فَحَقَّ عَلَيْهَا الْقَوْلُ فَدَمَّرْنَاهَا تَدْمِيرًا ﴿١٦﴾ وَكَمْ أَهْلَكْنَا مِنَ الْقُرُونِ
مِن بَعْدِ نُوحٍ ۗ وَكَفَىٰ بِرَبِّكَ بِذُنُوبِ عِبَادِهِ خَبِيرًا بَصِيرًا ﴿١٧﴾

(8)イスラーイールの子孫よ、あなたがたが悔悟し、善行を行うならば、主はこの厳しい罰の後、あなたがたに慈悲をかけてくれるかもしれない。だが3回目、またはそれ以上に悪を繰り返すのなら、**われら**はあなたがたを罰する。**われら**はアッラーの否定者に対し、地獄を離れることのない寝床とするのである。

(9)ムハンマドに下されたこのクルアーンは最善の道であるイスラームの道を示し、善行を行うアッラーの信仰者たちに吉報を告げる。それはアッラーからの偉大な褒美である。

(10)また、審判の日を信じない者たちには、凶報を告げる。**われら**は審判の日、かれらに痛ましい罰を用意しておいた。

(11)人間は無知から、怒りの状態にある時、自分自身や自分の子供・財産に対し、まるで自分によいことを祈るかのように、悪を祈ってしまう。もし悪の祈りに**われら**が応じれば、かれやその子供・財産も破滅してしまうのだが。人間はせっかちに創られており、自分を害することへと急いでしまうことがある。

(12)**われら**は夜と昼を、アッラーの唯一性と力を示す印として創った。それらはその長短、寒暖において違いがある。**われら**は夜を休息と睡眠のための闇とし、昼を物が見え、あなた方に定められたアッラーからの糧を求めるための明るいものとした。それはあなた方が、その変転により年数を知り、月日や時間の計算など必要な物事を知るようにするため。**われら**は全ての物事を明白に説明し、真理と虚妄が分かるようにした。

(13)**われら**は全ての人間に対し、各自の行いを、まるで首につけられた首飾りのように、不可分のものとした。それは清算されるまで、離れることがない。**われら**はそれを審判の日、全ての善行と悪行の帳簿として出してやり、かれ(人間)はそれを眼前に開かれた状態で見出す。

(14)その日、**われら**は言う。「人間よ、自分の帳簿を読め。自分で自分の行いの清算をせよ。審判の日、清算者は自分自身だけで十分なのだ。」

(15)信仰へと導かれた者には、導きの褒美がある。迷った者には、迷いの罰がある。人が他人の罪を負うことはない。**われら**は使徒たちを遣わすことで論拠が確証されるまで、民を罰することがない。

(16)**われら**は、ある町を不正のために滅ぼそうとする時、恩恵に対して思い上がった者に服従を命じる。そしてそれに従わず、むしろ服従に反抗した時、かれらを根こそぎに罰するという言葉が実現する。

(17)ヌーフの後、アードやサムードのように嘘呼ばわりをし、**われら**が滅ぼした民は何と多いことか。使徒よ、あなたの主だけで、僕たちの罪を熟知し監視する者は十分である。**かれ**に隠せるものはなく、**かれ**はかれらに報われる。

本諸節の功徳:

●クルアーンで導かれた者は、全ての物事において最も完全で、最も正しく、最もよく導かれた者である。
●自分自身や子供たちに悪を祈ることの注意。
●夜と昼の長さの変化、その変転、昼の明るさと夜の闇は全て、アッラーの唯一性と存在、完全な知識と力を示す印である。
●一連のアーヤは、個人の責任の原理を確証する。それはアッラーの公正さであり、僕たちに対する慈悲である。

مَّن كَانَ يُرِيدُ ٱلْعَاجِلَةَ عَجَّلْنَا لَهُۥ فِيهَا مَا نَشَآءُ لِمَن نُّرِيدُ ثُمَّ
جَعَلْنَا لَهُۥ جَهَنَّمَ يَصْلَىٰهَا مَذْمُومًا مَّدْحُورًا ﴿١٨﴾ وَمَنْ أَرَادَ
ٱلْءَاخِرَةَ وَسَعَىٰ لَهَا سَعْيَهَا وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَأُو۟لَٰٓئِكَ كَانَ
سَعْيُهُم مَّشْكُورًا ﴿١٩﴾ كُلًّا نُّمِدُّ هَٰٓؤُلَآءِ وَهَٰٓؤُلَآءِ مِنْ
عَطَآءِ رَبِّكَ ۚ وَمَا كَانَ عَطَآءُ رَبِّكَ مَحْظُورًا ﴿٢٠﴾ ٱنظُرْ كَيْفَ
فَضَّلْنَا بَعْضَهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ ۚ وَلَلْءَاخِرَةُ أَكْبَرُ دَرَجَٰتٍ وَأَكْبَرُ
تَفْضِيلًا ﴿٢١﴾ لَّا تَجْعَلْ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ فَتَقْعُدَ مَذْمُومًا مَّخْذُولًا
ربع الحزب ٢٩ ﴿٢٢﴾ ۞ وَقَضَىٰ رَبُّكَ أَلَّا تَعْبُدُوٓا۟ إِلَّآ إِيَّاهُ وَبِٱلْوَٰلِدَيْنِ إِحْسَٰنًا ۚ إِمَّا
يَبْلُغَنَّ عِندَكَ ٱلْكِبَرَ أَحَدُهُمَآ أَوْ كِلَاهُمَا فَلَا تَقُل لَّهُمَآ
أُفٍّ وَلَا تَنْهَرْهُمَا وَقُل لَّهُمَا قَوْلًا كَرِيمًا ﴿٢٣﴾ وَٱخْفِضْ لَهُمَا
جَنَاحَ ٱلذُّلِّ مِنَ ٱلرَّحْمَةِ وَقُل رَّبِّ ٱرْحَمْهُمَا كَمَا رَبَّيَانِى
صَغِيرًا ﴿٢٤﴾ رَّبُّكُمْ أَعْلَمُ بِمَا فِى نُفُوسِكُمْ ۚ إِن تَكُونُوا۟ صَٰلِحِينَ
فَإِنَّهُۥ كَانَ لِلْأَوَّٰبِينَ غَفُورًا ﴿٢٥﴾ وَءَاتِ ذَا ٱلْقُرْبَىٰ حَقَّهُۥ
وَٱلْمِسْكِينَ وَٱبْنَ ٱلسَّبِيلِ وَلَا تُبَذِّرْ تَبْذِيرًا ﴿٢٦﴾ إِنَّ ٱلْمُبَذِّرِينَ
كَانُوٓا۟ إِخْوَٰنَ ٱلشَّيَٰطِينِ ۖ وَكَانَ ٱلشَّيْطَٰنُ لِرَبِّهِۦ كَفُورًا ﴿٢٧﴾

(18)来世を信じも気にもせず、善行によって現世を求める者に対し、**われら**はそこ(現世)でかれが望むものではなく、**われら**が望む安寧を**われら**がそうしたいと望む者に与える。それから審判の日、**われら**はかれを地獄に入れ、かれはその暑さに苦しむことになる。かれは現世を選んだことで辱められ、アッラーの慈悲から遠ざけられる。

(19)他方、善行で来世を求め、評判などではなく純粋にそのために努力し、かつアッラーが信じることを義務づけたものを信じる者は、その努力がアッラーに受け入れられ、それに対して報われることになる。

(20)使徒よ、善良な方も悪い方も、いずれの側にも**われら**は、あなたの主の尽きることがないお恵みを授けよう。善良な者であろうと悪い者であろうと、現世においてあなたの主のお恵みから阻まれることはない。

(21)使徒よ、**われら**がかれらを糧や位階において、現世でいかに優劣をつけたのか考えてみよ。そして来世での安寧の位階には、現世よりももっと大きな違いと優劣があるのだ。だから信者には来世を求めさせよ。

(22)僕よ、アッラーに別の何かを並べて崇拝してはならない。そうすればアッラーの御許でも、正しい僕たちのもとでも賛美されることなく蔑まれ、援助者もなく見捨てられることになる。

(23)僕よ、あなたの主は、**かれ**に何ものも並べて崇拝しないことを命じた。また特に成人後、両親に親孝行することを命じた。両親のいずれか、または両方とも年老いたなら、かれらに対してうんざりしたり、苛つきを示すような言葉を放ってはならない。かれらに厳しい言葉を使ったりせず、やさしく良い言葉をかけるのだ。

(24)かれらに謙虚であり、慈悲深くあれ。そして言え。「主よ、わたしを育ててくれたかれらを慈しんで下さい。」

(25)人々よ、主は崇拝における純真さでも善行でも親孝行でも、あなたがたの心の中にあることを知っている。崇拝や両親との付き合いなどにおけるあなたがたの意図が正しいのであれば、**かれ**は悔悟を望む者に赦し深いお方。主や両親に対する服従における過去の至らなさを悔いる者を、アッラーは赦して下さる。

(26)信徒よ、近親者には親族関係の義務を果たし、貧しい者や旅路で物資が尽きた者には施せ。あなたの財産を罪や浪費に費やしてはならない。

(27)罪に財産を費やしたり、浪費したりする者たちは、悪魔の同胞である。かれらは、浪費せよという悪魔の命令に従っている。悪魔は主に対して恩知らずであり、罪以外行うことなく、その命令は全て主の怒りに触れることである。

本諸節の功徳:

●人間はやれる善行は行い、やれないことは意図しておくべきである。それによって褒美を得ることが出来る。
●現世での恩恵は必ずしもアッラーのお喜びを示すわけではない。それは信者以外の者が得ることもあり、(来世での)最後はアッラーに罰されることもあるからである。
●両親に対する親孝行は強調された義務。その偉大さのため、両親への感謝はアッラーへの感謝と並べられている。
●イスラームは浪費を禁じる。浪費とは財産の不適切な消費である。

وَإِمَّا تُعْرِضَنَّ عَنْهُمُ ٱبْتِغَآءَ رَحْمَةٍ مِّن رَّبِّكَ تَرْجُوهَا فَقُل لَّهُمْ قَوْلًا
مَّيْسُورًا ﴿٢٨﴾ وَلَا تَجْعَلْ يَدَكَ مَغْلُولَةً إِلَىٰ عُنُقِكَ وَلَا تَبْسُطْهَا
كُلَّ ٱلْبَسْطِ فَتَقْعُدَ مَلُومًا مَّحْسُورًا ﴿٢٩﴾ إِنَّ رَبَّكَ يَبْسُطُ ٱلرِّزْقَ
لِمَن يَشَآءُ وَيَقْدِرُ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ بِعِبَادِهِۦ خَبِيرًۢا بَصِيرًا ﴿٣٠﴾ وَلَا تَقْتُلُوٓا۟
أَوْلَٰدَكُمْ خَشْيَةَ إِمْلَٰقٍ ۖ نَّحْنُ نَرْزُقُهُمْ وَإِيَّاكُمْ ۚ إِنَّ قَتْلَهُمْ كَانَ
خِطْـًٔا كَبِيرًا ﴿٣١﴾ وَلَا تَقْرَبُوا۟ ٱلزِّنَىٰٓ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ فَٰحِشَةً وَسَآءَ
سَبِيلًا ﴿٣٢﴾ وَلَا تَقْتُلُوا۟ ٱلنَّفْسَ ٱلَّتِى حَرَّمَ ٱللَّهُ إِلَّا بِٱلْحَقِّ ۗ
وَمَن قُتِلَ مَظْلُومًا فَقَدْ جَعَلْنَا لِوَلِيِّهِۦ سُلْطَٰنًا فَلَا يُسْرِف فِّى
ٱلْقَتْلِ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ مَنصُورًا ﴿٣٣﴾ وَلَا تَقْرَبُوا۟ مَالَ ٱلْيَتِيمِ إِلَّا بِٱلَّتِى
هِىَ أَحْسَنُ حَتَّىٰ يَبْلُغَ أَشُدَّهُۥ ۚ وَأَوْفُوا۟ بِٱلْعَهْدِ ۖ إِنَّ ٱلْعَهْدَ كَانَ
مَسْـُٔولًا ﴿٣٤﴾ وَأَوْفُوا۟ ٱلْكَيْلَ إِذَا كِلْتُمْ وَزِنُوا۟ بِٱلْقِسْطَاسِ ٱلْمُسْتَقِيمِ ۚ
ذَٰلِكَ خَيْرٌ وَأَحْسَنُ تَأْوِيلًا ﴿٣٥﴾ وَلَا تَقْفُ مَا لَيْسَ لَكَ بِهِۦ عِلْمٌ ۚ إِنَّ
ٱلسَّمْعَ وَٱلْبَصَرَ وَٱلْفُؤَادَ كُلُّ أُو۟لَٰٓئِكَ كَانَ عَنْهُ مَسْـُٔولًا ﴿٣٦﴾
وَلَا تَمْشِ فِى ٱلْأَرْضِ مَرَحًا ۖ إِنَّكَ لَن تَخْرِقَ ٱلْأَرْضَ وَلَن تَبْلُغَ
ٱلْجِبَالَ طُولًا ﴿٣٧﴾ كُلُّ ذَٰلِكَ كَانَ سَيِّئُهُۥ عِندَ رَبِّكَ مَكْرُوهًا ﴿٣٨﴾

(28)もしかれらに施すものがなく、アッラーからの糧を待っている状態なら、かれらに優しく柔らかい言葉をかけよ。例えば、かれらに豊かな糧を祈ってやったり、アッラーから財産を授かった時には、施すことを約束したりすることである。

(29)施しを控えてもならないし、施しを浪費してもならない。施しを控えれば、人々はあなたを吝嗇(りんしょく)で咎めるだろう。また施しを浪費すれば、あなたは施す物を失い、もはや施すことが出来なくなるだろう。

(30)主はお望みの者に糧を豊かに授け、またお望みの者には英知からその糧を減少させる。**かれ**は僕たちについてよくご存知になり、よくご覧になるお方。**かれ**から隠れられるものはなく、**かれ**はかれらに対してお望みのことを行う。

(31)費やすことで降りかかるかもしれない将来的な貧しさを恐れて、あなたがたの子供たちを殺してはならない。**われら**がかれらの糧も、あなたがたの糧も保障するのである。かれらは無実で、殺害に値する理由もない。かれらの殺害は大きな罪である。

(32)姦淫に気をつけ、その原因となることを避けよ。それはこれ以上ないほどの醜事であり、子孫の混同とアッラーの罰につながる忌まわしい道である。

(33)アッラーが信仰、あるいは安全保障によって、その生命を保障した者を殺害してはならない。ただし棄教や、婚姻後の姦淫、キサース(報復刑)によって死刑が確定した者は別である。正当な理由もなく不当に殺害された者の後見人に、**われら**は殺害者に対する権利を授けた。つまりかれ(後見人)はキサースによる死刑、無条件の赦免、血債と引き換えの赦免を求めることが出来る。かれ(後見人)は殺害者に対する遺体の損壊、殺害したのとは別のやり方による死刑、殺害者以外の殺害といったことで、殺害者に対してアッラーから許された限度を越えることはない。かれ(後見人)は援助された者である。

(34)父親をなくした子供たちの財産は、それをかれらに役立つ形で運用するのでない限り、勝手に使ってはならない。かれらの分別がつくようになるまで、それを保管しなければならない。また、あなたがたとアッラーとの間の契約、あなたがた自身の間の契約を破棄することもなく、完全に遂行せよ。アッラーは審判の日、契約をした者に尋ね、契約を守った者には褒美を授け、守らなかったなら罰するのだ。

(35)他人に対して計量する時には、きちんと計量し、損させてはならない。また目方を減らすことなく、公正さの秤で計れ。きちんと計量することが、現世と来世においてあなたがたにとって最善なのであり、目方を減らすことよりも良い結末を生むのだ。

(36)アーダムの子よ、知らないことに従ったり、憶測や想像に従ったりしてはならない。人間は何に聴覚、視覚、心を用いたか、善いことに使ったか、悪いことに使ったかを尋ねられることになる。そして善いことであれば褒美を受け、悪いことであれば罰されるのだ。

(37)地上で偉ぶって歩いてはならない。偉ぶって歩いたところで、歩みによって大地を断つことも出来なければ、山の高さに達することも出来ないのだから。ならば、どうして偉ぶるのか?

(38)人間よ、ここで挙げられた全ての悪は、アッラーの御許で禁じられたもの。これらのことを行う者を**かれ**が愛されることはなく、むしろお嫌いになる。

本諸節の功徳:

●近親に対して優しく返答し、それが出来る時には近親への善行を約束し、適切な形で謝ることは、優れた作法である。
●アッラーは子供に対して、その両親よりも慈悲深い。貧困や糧の減少のために子殺しをすることを禁じ、全ての者への糧を保障する。
●一連のアーヤでは、後見人に殺害における権利があり、かれの許可なしに報復刑は執行されないことが示される。もしかれが赦免するなら、報復刑は行われない。
●アッラーはその慈悲深さから、孤児の後見人が孤児とその財産を保護し、成年するまでそれを正しく運用することを命じている。

ذَٰلِكَ مِمَّآ أَوۡحَىٰٓ إِلَيۡكَ رَبُّكَ مِنَ ٱلۡحِكۡمَةِۗ وَلَا تَجۡعَلۡ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا
ءَاخَرَ فَتُلۡقَىٰ فِي جَهَنَّمَ مَلُومٗا مَّدۡحُورًا ﴿٣٩﴾ أَفَأَصۡفَىٰكُمۡ رَبُّكُم
بِٱلۡبَنِينَ وَٱتَّخَذَ مِنَ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ إِنَٰثًاۚ إِنَّكُمۡ لَتَقُولُونَ قَوۡلًا عَظِيمٗا ﴿٤٠﴾
وَلَقَدۡ صَرَّفۡنَا فِي هَٰذَا ٱلۡقُرۡءَانِ لِيَذَّكَّرُواْ وَمَا يَزِيدُهُمۡ إِلَّا نُفُورٗا ﴿٤١﴾
قُل لَّوۡ كَانَ مَعَهُۥٓ ءَالِهَةٞ كَمَا يَقُولُونَ إِذٗا لَّٱبۡتَغَوۡاْ إِلَىٰ ذِي ٱلۡعَرۡشِ سَبِيلٗا
﴿٤٢﴾ سُبۡحَٰنَهُۥ وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يَقُولُونَ عُلُوّٗا كَبِيرٗا ﴿٤٣﴾ تُسَبِّحُ لَهُ ٱلسَّمَٰوَٰتُ
ٱلسَّبۡعُ وَٱلۡأَرۡضُ وَمَن فِيهِنَّۚ وَإِن مِّن شَيۡءٍ إِلَّا يُسَبِّحُ بِحَمۡدِهِۦ وَلَٰكِن
لَّا تَفۡقَهُونَ تَسۡبِيحَهُمۡۚ إِنَّهُۥ كَانَ حَلِيمًا غَفُورٗا ﴿٤٤﴾ وَإِذَا قَرَأۡتَ
ٱلۡقُرۡءَانَ جَعَلۡنَا بَيۡنَكَ وَبَيۡنَ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ حِجَابٗا
مَّسۡتُورٗا ﴿٤٥﴾ وَجَعَلۡنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ أَكِنَّةً أَن يَفۡقَهُوهُ وَفِيٓ ءَاذَانِهِمۡ
وَقۡرٗاۚ وَإِذَا ذَكَرۡتَ رَبَّكَ فِي ٱلۡقُرۡءَانِ وَحۡدَهُۥ وَلَّوۡاْ عَلَىٰٓ أَدۡبَٰرِهِمۡ نُفُورٗا ﴿٤٦﴾
نَّحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَا يَسۡتَمِعُونَ بِهِۦٓ إِذۡ يَسۡتَمِعُونَ إِلَيۡكَ وَإِذۡ هُمۡ نَجۡوَىٰٓ
إِذۡ يَقُولُ ٱلظَّٰلِمُونَ إِن تَتَّبِعُونَ إِلَّا رَجُلٗا مَّسۡحُورًا ﴿٤٧﴾ ٱنظُرۡ
كَيۡفَ ضَرَبُواْ لَكَ ٱلۡأَمۡثَالَ فَضَلُّواْ فَلَا يَسۡتَطِيعُونَ سَبِيلٗا ﴿٤٨﴾
وَقَالُوٓاْ أَءِذَا كُنَّا عِظَٰمٗا وَرُفَٰتًا أَءِنَّا لَمَبۡعُوثُونَ خَلۡقٗا جَدِيدٗا ﴿٤٩﴾

(39)それは、**われら**があなたへの啓示を介して説明した英知の中の命令、禁止、法規定である。人間よ、アッラーの他に崇拝する対象を置いてはならない。そうすれば審判の日、あなたは地獄へ放り込まれる。そして自分自身と他人に咎められ、あらゆる善から放逐されるのだ。

(40)天使たちがアッラーの娘と主張する者たちよ、多神教徒たちよ、主はあなたたちに男児を選び、ご自身には娘である天使たちを選んだというのか?アッラーはあなたがたが言うことから遥か無縁で崇高なお方。あなたがたはアッラーに対して、これ以上ない醜いことを言っている。不信仰の限りを尽くして、**かれ**には息子と娘があると主張しているのだから。

(41)**われら**は人々が教訓を得るようにと、このクルアーンの中で法規定と訓戒とたとえを明らかにした。それはかれらが有益なことを行い、有害なことを放棄するためである。しかし、天性が逆転してしまったある種の者たちは、それによって真理からの隔たりと真理への憎しみを増すだけである。

(42)使徒よ、これらの多神教徒たちに言え。「もしあなたがたが嘘をついて語っているように、アッラーと共に崇拝される対象があったとしたら、それらのものは玉座の主アッラーへの道を求めただろう。それらのものが**かれ**を打ち負かし、**かれ**の主権を奪い取ろうとするためである。」

(43)アッラーは、多神教徒たちが描写することから無縁で崇高なお方。かれらの言うようなことから、遥か高いところにおられる。

(44)天地とそこにある被造物は皆、アッラーを賛美する。あらゆるものは**かれ**を称賛し、賛美するが、あなたがたにはそれらの賛美が分からないのだ。あなたがたは自分たちの言葉で行う賛美しか理解しない。**かれ**は罰を急がない寛容なお方であり、悔悟する者には赦し深いお方。

(45)使徒よ、あなたがクルアーンを読誦し、かれらがその警告や訓戒を聞く時、**われら**はあなたと審判の日を信じない者たちの間を幕でさえぎる。かれらはその反発のため、罰としてクルアーンの理解から阻まれるのだ。

(46)また**われら**は、かれらの心には覆いをかけてクルアーンを理解出来ないようにし、耳には重しをかけて有益な形では聞こえないようにした。あなたがクルアーンの中で主だけに言及し、かれらの偽の神々には言及しないと、かれらはアッラーの唯一性における純正さからは遠ざかり、背を向けるのだ。

(47)**われら**は、かれらの指導者たちがクルアーンをどのように聞くのか、よく知っている。かれらはそれによる導きを望まず、むしろそれが読まれる際には、蔑みと無駄口を望むのだ。また、**われら**はかれらが声をひそめ合って、それを嘘よばわりし、遠ざけようとすることもよく知っている。これらの不正者たちは不信仰をもって、お互いに言うのだ。「人々よ、あなたがたが従っているのは、魔術にかかって混乱した一人の男に過ぎない。」

(48)使徒よ、かれらがあなたを様々に悪い性質で描写することを、驚きと共に熟慮せよ。かれらは真理から外れて混乱し、真理の道へとは導かれなかった。

(49)多神教徒たちは復活を否定して、言った。「わたしたちが死んで骨と化し、体が崩れ落ちた後、新たに復活させられると?そんなことは有り得ない。」

本諸節の功徳:

●天使たちがアッラーの娘であるという主張は大きな嘘であり、アッラーの御許で大きな罪となる言葉である。
●多くの者にとってアッラーのアーヤは、離反しかもたらさない。それは真理への憎悪と、自分たちの誤った状態に対する愛情のためである。
●天地のあらゆる被造物は、アッラーを称賛し賛美する。僕はそれらの被造物よりも率先して称賛すべきである。
●僕たちの不注意と悪行に対し、アッラーが罰を急がないのは、その寛容さのためである。アッラーの慈悲は怒りに勝る。

نصف الجزء ٢٩

۞ قُلْ كُونُوا۟ حِجَارَةً أَوْ حَدِيدًا ﴿٥٠﴾ أَوْ خَلْقًا مِّمَّا يَكْبُرُ فِى
صُدُورِكُمْ ۚ فَسَيَقُولُونَ مَن يُعِيدُنَا ۖ قُلِ ٱلَّذِى فَطَرَكُمْ أَوَّلَ مَرَّةٍ ۚ
فَسَيُنْغِضُونَ إِلَيْكَ رُءُوسَهُمْ وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هُوَ ۖ قُلْ عَسَىٰٓ أَن
يَكُونَ قَرِيبًا ﴿٥١﴾ يَوْمَ يَدْعُوكُمْ فَتَسْتَجِيبُونَ بِحَمْدِهِۦ وَتَظُنُّونَ
إِن لَّبِثْتُمْ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٥٢﴾ وَقُل لِّعِبَادِى يَقُولُوا۟ ٱلَّتِى هِىَ أَحْسَنُ ۚ
إِنَّ ٱلشَّيْطَٰنَ يَنزَغُ بَيْنَهُمْ ۚ إِنَّ ٱلشَّيْطَٰنَ كَانَ لِلْإِنسَٰنِ عَدُوًّا
مُّبِينًا ﴿٥٣﴾ رَّبُّكُمْ أَعْلَمُ بِكُمْ ۖ إِن يَشَأْ يَرْحَمْكُمْ أَوْ إِن يَشَأْ ۚ
يُعَذِّبْكُمْ ۚ وَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ عَلَيْهِمْ وَكِيلًا ﴿٥٤﴾ وَرَبُّكَ أَعْلَمُ
بِمَن فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۗ وَلَقَدْ فَضَّلْنَا بَعْضَ ٱلنَّبِيِّۦنَ عَلَىٰ
بَعْضٍ ۖ وَءَاتَيْنَا دَاوُۥدَ زَبُورًا ﴿٥٥﴾ قُلِ ٱدْعُوا۟ ٱلَّذِينَ زَعَمْتُم مِّن
دُونِهِۦ فَلَا يَمْلِكُونَ كَشْفَ ٱلضُّرِّ عَنكُمْ وَلَا تَحْوِيلًا ﴿٥٦﴾ أُو۟لَٰٓئِكَ
ٱلَّذِينَ يَدْعُونَ يَبْتَغُونَ إِلَىٰ رَبِّهِمُ ٱلْوَسِيلَةَ أَيُّهُمْ أَقْرَبُ
وَيَرْجُونَ رَحْمَتَهُۥ وَيَخَافُونَ عَذَابَهُۥٓ ۚ إِنَّ عَذَابَ رَبِّكَ كَانَ
مَحْذُورًا ﴿٥٧﴾ وَإِن مِّن قَرْيَةٍ إِلَّا نَحْنُ مُهْلِكُوهَا قَبْلَ يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ
أَوْ مُعَذِّبُوهَا عَذَابًا شَدِيدًا ۚ كَانَ ذَٰلِكَ فِى ٱلْكِتَٰبِ مَسْطُورًا ﴿٥٨﴾

(50)使徒よ、彼らに言え。「多神教徒たちよ、出来るのなら、硬い石にでも、強力な鉄にでもなってみよ。そうはなれないだろうが。

(51)あるいはあなたがたの心の中で、それらよりも偉大な被造物になってみよ。アッラーはあなたがたを原初の状態に戻し、最初の創造のように生かされるお方。これらの頑迷な者たちは、言う。「死後、誰がわたしたちを生きている状態に戻すのか?」言ってやれ。「あなたがたを前例のない形で最初に創造したお方が、お戻しになる。」するとかれらはあなたの返答を嘲笑し、頭を振ってこう言う。「その復活はいつなのか?」言ってやれ。「遠くないだろう。」到来するものは全て、遠くはないのだ。

(52)あなたがたを集合の地へと呼ぶ日、アッラーはあなたがたを復活させる。あなたがたはその命令に従い、**かれ**を称賛しながら応じる。あなたがたは地上で、僅かな時間しか過ごさなかったと思う。

(53)使徒よ、信者であるわが僕たちに、言え。話をする時にはよい言葉を語り、嫌がられるような悪い言葉を避けよ、と。なぜなら悪魔はそれを利用し、現世と来世における生活を害するため、かれらの間で努力しているからである。悪魔は人間に対する明らかな敵であるから、注意しなければならない。

(54)人々よ、主はあなたがたのことをよく知っている。あなたがたのことで、**かれ**に隠せることはない。**かれ**があなたがたに慈悲をかけることを望めば、信仰と善行への導きによって慈悲をかけ、あなたがたの罰を望めば、あなたがたから信仰を遠ざけ、不信仰の状態で死を迎えることで罰しよう。使徒よ、**われら**はあなたを、信仰を強制して不信仰から阻み、かれらの行いを数え上げるための後見人として遣わしたのではない。あなたはアッラーから命じられたことを伝える伝達者に過ぎない。

(55)使徒よ、主は天地のあらゆる物事、かれらの状態とかれらに相応しいことを、よく知っている。**われら**は信徒の数や啓典の授与に関し、ある預言者たちを他の者たちよりも優位とした。そしてダーウードには詩篇という啓典を授けた。

(56)使徒よ、多神教徒たちに言え。「多神教徒たちよ、あなたがたに害悪が及んだら、あなたがたがアッラー以外の神々と主張しているものに祈ってみよ。それらは不能さのため、あなたがたから害悪をはね退けることも、それを別の者に転移させることも出来ない。不能者は神とはなり得ないのだ。」

(57)天使などの、かれらが祈っている者たちは、かれら自身が善行によってアッラーへのお近づきを求め、誰が服従行為において**かれ**に最も近いか、競い合う者たちである。かれらは**かれ**の慈悲を望み、**かれ**の罰を恐れる者たち。使徒よ、主の罰は警戒すべきものである。

(58)その不信仰のために**われら**が現世における懲罰や破滅をもたらす不信仰な住民の住む村や町、または殺害などの厳しい罰で試練にかけようとするその破滅や罰は、守護された碑板に記された神の定めである。

本諸節の功徳:

●よい言葉はよい品性と善行を呼ぶ。口を制する者は、全ての物事を制する。
●アッラーはその知識と英知により、預言者たちの間に優劣をつけた。
●アッラーは僕によいことしか望まず、その福利に適ったことしか命じない。
●アッラーへと近づけてくれる行いの努力、行いを真摯にアッラーに捧げることにおいて競い合うのは、アッラーの愛を授かっていることの印である。

وَمَا مَنَعَنَآ أَن نُّرۡسِلَ بِٱلۡأٓيَٰتِ إِلَّآ أَن كَذَّبَ بِهَا ٱلۡأَوَّلُونَۚ
وَءَاتَيۡنَا ثَمُودَ ٱلنَّاقَةَ مُبۡصِرَةٗ فَظَلَمُواْ بِهَاۚ وَمَا نُرۡسِلُ بِٱلۡأٓيَٰتِ
إِلَّا تَخۡوِيفٗا ٥٩ وَإِذۡ قُلۡنَا لَكَ إِنَّ رَبَّكَ أَحَاطَ بِٱلنَّاسِۚ وَمَا جَعَلۡنَا
ٱلرُّءۡيَا ٱلَّتِيٓ أَرَيۡنَٰكَ إِلَّا فِتۡنَةٗ لِّلنَّاسِ وَٱلشَّجَرَةَ ٱلۡمَلۡعُونَةَ
فِي ٱلۡقُرۡءَانِۚ وَنُخَوِّفُهُمۡ فَمَا يَزِيدُهُمۡ إِلَّا طُغۡيَٰنٗا كَبِيرٗا ٦٠
وَإِذۡ قُلۡنَا لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ ٱسۡجُدُواْ لِأٓدَمَ فَسَجَدُوٓاْ إِلَّآ إِبۡلِيسَ
قَالَ ءَأَسۡجُدُ لِمَنۡ خَلَقۡتَ طِينٗا ٦١ قَالَ أَرَءَيۡتَكَ هَٰذَا ٱلَّذِي
كَرَّمۡتَ عَلَيَّ لَئِنۡ أَخَّرۡتَنِ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ لَأَحۡتَنِكَنَّ
ذُرِّيَّتَهُۥٓ إِلَّا قَلِيلٗا ٦٢ قَالَ ٱذۡهَبۡ فَمَن تَبِعَكَ مِنۡهُمۡ فَإِنَّ
جَهَنَّمَ جَزَآؤُكُمۡ جَزَآءٗ مَّوۡفُورٗا ٦٣ وَٱسۡتَفۡزِزۡ مَنِ ٱسۡتَطَعۡتَ
مِنۡهُم بِصَوۡتِكَ وَأَجۡلِبۡ عَلَيۡهِم بِخَيۡلِكَ وَرَجِلِكَ وَشَارِكۡهُمۡ
فِي ٱلۡأَمۡوَٰلِ وَٱلۡأَوۡلَٰدِ وَعِدۡهُمۡۚ وَمَا يَعِدُهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ إِلَّا
غُرُورًا ٦٤ إِنَّ عِبَادِي لَيۡسَ لَكَ عَلَيۡهِمۡ سُلۡطَٰنٞۚ وَكَفَىٰ
بِرَبِّكَ وَكِيلٗا ٦٥ رَّبُّكُمُ ٱلَّذِي يُزۡجِي لَكُمُ ٱلۡفُلۡكَ فِي
ٱلۡبَحۡرِ لِتَبۡتَغُواْ مِن فَضۡلِهِۦٓۚ إِنَّهُۥ كَانَ بِكُمۡ رَحِيمٗا ٦٦

(59)死者を生き返らせるなどの、多神教徒たちが使徒に求めた、使徒の正直さを示す感覚的証拠をわれらが下さなかったのは、過去の民にそれを下しても嘘よばわりしたからである。**われら**はサムードに明らかな印として雌ラクダを下したが、かれらがそれを否定したので、**われら**はかれらへの罰を早めた。**われら**が使徒たちを介して印を下すのは、その民を恐れさせ、従うようにするためである。

(60)使徒よ、**われら**があなたに、こう言った時のことを思い出せ。あなたの主は人々をその御力によって包囲し、かれらは**かれ**の手中にある。アッラーがかれらから、あなたを守るのだ。あなたは伝えることを命じられたことを、伝達せよ。**われら**が夜の旅であなたに眼前に見せたものは、人々が信じるか、または嘘よばわりするかという、かれらへの試練に他ならない。クルアーンで言及された、地獄の底から生えるザックームの木も、**われら**のかれらに対する試練である。これらの二つの印を信じないのなら、それ以外のものでも信じることはない。**われら**は印を下してかれらに恐怖を与えるが、かれらはそれによって更なる不信仰と迷いを増すだけである。

(61)使徒よ、**われら**が天使たちにこう言った時のことを思い出せ。「アーダムにサジダせよ。崇拝のサジダではなく、挨拶のサジダを。」かれらは皆従ってサジダしたが、イブリースは高慢にもそれを拒み、言った。「あなたが土から創った者に、わたしがサジダしようか？あなたはわたしを火から創ったのであり、わたしの方が高貴である。」

(62)イブリースは主に言った。「サジダせよとのあなたの命令によって、あなたがわたしよりも大事にしたこの被造物を、ご覧になりませんか？もしわたしを現世の最後の時まで生かしてくれるのなら、わたしは必ずその子孫を誘惑し、あなたの真っ直ぐな道から迷わせましょう。しかしあなたが守った少数の者、あなたの従順な僕たちは別ですが。」

(63)主はかれに言った。「あなたは、あなたに従った者と共に出て行け。地獄があなたとかれらの報いであり、あなたがたの行いへの完全な報いとなる。」

(64)そして可能な限りの者を、罪へと誘うあなたの声で誘惑してみよ。あなたへの服従へと呼ぶ、あなたの軍勢をもって、かれらに声をかけよ。法に背くあらゆる行為を美しいものと見せることで、かれらの財産の分け前を得よ。また嘘の主張や姦淫、アッラー以外の僕とするような命名によって、かれらの子供からの分け前を得よ。嘘の約束、根拠のない希望をかれらに、美化して見せよ。」悪魔のかれらへの約束は、嘘の約束に過ぎないのだが。

(65)イブリースよ、**われ**への服従行為に勤しむ信徒である、わが僕たちに対して、あなたにはいかなる力もない。アッラーはあなたの悪から、かれらを守るからである。アッラーに全ての物事を委ねる者には、**かれ**だけで委任者は十分なのだ。

(66)人々よ、主はあなたがたのため、海に船を航行させるお方。それは商売などにより、あなたがたがそこから糧を得ることを望んでのこと。**かれ**はこれらの手段を容易なものとしてくれた、あなたがたに慈悲深いお方。

本諸節の功徳:

●嘘よばわりする者たちが要求する印を下さないのは、アッラーの慈悲によるもの。それはかれらがそれを嘘とすることで、罰が早まらないためである。
●アッラーは、言動によって罪へと誘う悪魔により、僕たちを試練にかけた。
●悪魔が、人間の財産や子供たちの分け前を得るやり口として、飲食や性交の際にアッラーの名を唱えないこと、子供の教育の放棄などがある。

وَإِذَا مَسَّكُمُ ٱلضُّرُّ فِى ٱلْبَحْرِ ضَلَّ مَن تَدْعُونَ إِلَّآ إِيَّاهُ ۖ فَلَمَّا
نَجَّىٰكُمْ إِلَى ٱلْبَرِّ أَعْرَضْتُمْ ۚ وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ كَفُورًا ﴿٦٧﴾ أَفَأَمِنتُمْ
أَن يَخْسِفَ بِكُمْ جَانِبَ ٱلْبَرِّ أَوْ يُرْسِلَ عَلَيْكُمْ حَاصِبًا ثُمَّ
لَا تَجِدُوا۟ لَكُمْ وَكِيلًا ﴿٦٨﴾ أَمْ أَمِنتُمْ أَن يُعِيدَكُمْ فِيهِ تَارَةً
أُخْرَىٰ فَيُرْسِلَ عَلَيْكُمْ قَاصِفًا مِّنَ ٱلرِّيحِ فَيُغْرِقَكُم بِمَا كَفَرْتُمْ
ثُمَّ لَا تَجِدُوا۟ لَكُمْ عَلَيْنَا بِهِۦ تَبِيعًا ﴿٦٩﴾ ۞ وَلَقَدْ كَرَّمْنَا بَنِىٓ
ءَادَمَ وَحَمَلْنَٰهُمْ فِى ٱلْبَرِّ وَٱلْبَحْرِ وَرَزَقْنَٰهُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ
وَفَضَّلْنَٰهُمْ عَلَىٰ كَثِيرٍ مِّمَّنْ خَلَقْنَا تَفْضِيلًا ﴿٧٠﴾ يَوْمَ نَدْعُوا۟
كُلَّ أُنَاسٍۭ بِإِمَٰمِهِمْ ۖ فَمَنْ أُوتِىَ كِتَٰبَهُۥ بِيَمِينِهِۦ فَأُو۟لَٰٓئِكَ
يَقْرَءُونَ كِتَٰبَهُمْ وَلَا يُظْلَمُونَ فَتِيلًا ﴿٧١﴾ وَمَن كَانَ
فِى هَٰذِهِۦٓ أَعْمَىٰ فَهُوَ فِى ٱلْءَاخِرَةِ أَعْمَىٰ وَأَضَلُّ سَبِيلًا ﴿٧٢﴾ وَإِن
كَادُوا۟ لَيَفْتِنُونَكَ عَنِ ٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ لِتَفْتَرِىَ
عَلَيْنَا غَيْرَهُۥ ۖ وَإِذًا لَّٱتَّخَذُوكَ خَلِيلًا ﴿٧٣﴾ وَلَوْلَآ أَن ثَبَّتْنَٰكَ
لَقَدْ كِدتَّ تَرْكَنُ إِلَيْهِمْ شَيْـًٔا قَلِيلًا ﴿٧٤﴾ إِذًا لَّأَذَقْنَٰكَ ضِعْفَ
ٱلْحَيَوٰةِ وَضِعْفَ ٱلْمَمَاتِ ثُمَّ لَا تَجِدُ لَكَ عَلَيْنَا نَصِيرًا ﴿٧٥﴾

(67)多神教徒たちよ、あなたがたに海で災難が降りかかり、破滅を恐れる時、あなたがたの意識から、アッラーをよそに崇拝していたものは消え失せる。あなたがたはアッラーだけを思い出し、**かれ**に援助を求めるのだ。だが、いざ**かれ**があなたがたを恐怖から救い、陸に上げると、あなたがたはアッラーの唯一性と**かれ**のみへの祈願から背を向け、偶像へと立ち返る。人間はアッラーの恩恵の否定者である。

(68)多神教徒たちよ、あなたがたは陸へと救われた後、地崩れにあわないと安心するのか?ルートの民を襲ったような、石の雨が天から降っては来ないと、安心しているのか?その時、あなたがたを守ってくれる守護者も、破滅から救ってくれる援助者もいない。

(69)あるいは、アッラーが再びあなたがたを海に戻し、そこで激しい風を遣わし、最初に救われた恩を忘れたために溺死させられないと、安心しているのか?その時あなたがたには、**われら**があなたがたに対してしたことに対し、**われら**を追及する者もいない。

(70)**われら**はアーダムの子孫を高貴なものとし、理性を授け、天使たちをその父祖にサジダさせた。また動物や乗り物など、陸上でかれらを運ぶものを、海でかれらを運ぶ船を、かれらに仕えさせた。またかれらに、よい飲食物や配偶者を授けた。そして他の多くの被造物よりも遥かに優越させた。かれらはアッラーの恩恵に感謝すべきである。

(71)使徒よ、**われら**が全ての集団を、現世でかれらが従っていた指導者と共に呼び出す日を思い出せ。行いの帳簿を右手に頂く者たちはそれを喜んで読み、少しもご褒美を減らされることはない。たとえそれが種子の割れ目にある糸くずのように、小さなものだったとしてもそうである。

(72)現世の生活で真理を受け入れて従うことに心が盲目だった者は、審判の日には更に盲目である。天国の道へと導かれることはなく、導きからひどく迷い去っている。報いは行いと同種のものとなる。

(73)使徒よ、多神教徒たちは、**われら**があなたに啓示したクルアーンから、あなたを背かせかけるところだった。それはかれらの私欲に添った、それ(クルアーン)以外のものを**われら**に捏造させるため。かれらの望むことをすれば、かれらはあなたを親友としただろう。

(74)もし**われら**があなたに真理の上における確立を授けなければ、あなたはかれらにいくらか傾いてしまい、かれらの提案を受け入れてしまっただろう。あなたはかれらが信仰するのに懸命だったが、かれらの企みも強力だったのだ。しかし**われら**は、あなたがかれらに傾くことから守った。

(75)あなたがかれらの提案へと傾いていたら、**われら**は現世と来世であなたに倍の罰を下しただろう。そうなればあなたには、罰から守ってくれる援助者はいない。

本諸節の功徳:

●アッラーによって導かれた者以外、人間は恩知らずである。
●全ての民は自分の宗教と帳簿へと呼ばれ、行いについて尋ねられるが、アッラーは根拠なしには誰のことも罰さない。
●使徒を嘘よばわりする罪悪者たちとその後継者たちの敵意は、明白である。それはかれら自身ではなく、かれらがもたらした真理のためである。
●アッラーは預言者を悪の原因や人間から守り、確固とさせ、まっすぐな道に導いた。そしてその後継者たちにもその服従度に応じて、同様のものがある。

وَإِن كَادُوا۟ لَيَسْتَفِزُّونَكَ مِنَ ٱلْأَرْضِ لِيُخْرِجُوكَ مِنْهَا ۖ
وَإِذًا لَّا يَلْبَثُونَ خِلَٰفَكَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٧٦﴾ سُنَّةَ مَن قَدْ أَرْسَلْنَا
قَبْلَكَ مِن رُّسُلِنَا ۖ وَلَا تَجِدُ لِسُنَّتِنَا تَحْوِيلًا ﴿٧٧﴾ أَقِمِ
ٱلصَّلَوٰةَ لِدُلُوكِ ٱلشَّمْسِ إِلَىٰ غَسَقِ ٱلَّيْلِ وَقُرْءَانَ ٱلْفَجْرِ ۖ
إِنَّ قُرْءَانَ ٱلْفَجْرِ كَانَ مَشْهُودًا ﴿٧٨﴾ وَمِنَ ٱلَّيْلِ فَتَهَجَّدْ
بِهِۦ نَافِلَةً لَّكَ عَسَىٰٓ أَن يَبْعَثَكَ رَبُّكَ مَقَامًا مَّحْمُودًا ﴿٧٩﴾
وَقُل رَّبِّ أَدْخِلْنِى مُدْخَلَ صِدْقٍ وَأَخْرِجْنِى مُخْرَجَ صِدْقٍ
وَٱجْعَل لِّى مِن لَّدُنكَ سُلْطَٰنًا نَّصِيرًا ﴿٨٠﴾ وَقُلْ جَآءَ ٱلْحَقُّ وَزَهَقَ
ٱلْبَٰطِلُ ۚ إِنَّ ٱلْبَٰطِلَ كَانَ زَهُوقًا ﴿٨١﴾ وَنُنَزِّلُ مِنَ ٱلْقُرْءَانِ مَا هُوَ
شِفَآءٌ وَرَحْمَةٌ لِّلْمُؤْمِنِينَ وَلَا يَزِيدُ ٱلظَّٰلِمِينَ إِلَّا خَسَارًا ﴿٨٢﴾
وَإِذَآ أَنْعَمْنَا عَلَى ٱلْإِنسَٰنِ أَعْرَضَ وَنَـَٔا بِجَانِبِهِۦ وَإِذَا مَسَّهُ
ٱلشَّرُّ كَانَ يَـُٔوسًا ﴿٨٣﴾ قُلْ كُلٌّ يَعْمَلُ عَلَىٰ شَاكِلَتِهِۦ ۖ فَرَبُّكُمْ أَعْلَمُ
بِمَنْ هُوَ أَهْدَىٰ سَبِيلًا ﴿٨٤﴾ وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلرُّوحِ ۖ قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ
أَمْرِ رَبِّى وَمَآ أُوتِيتُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٨٥﴾ وَلَئِن شِئْنَا لَنَذْهَبَنَّ
بِٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ ثُمَّ لَا تَجِدُ لَكَ بِهِۦ عَلَيْنَا وَكِيلًا ﴿٨٦﴾

(76)不信仰者たちはあなたへの敵意のため、あなたに嫌がらせをしてマッカから追い出してしまうところだった。しかしアッラーの命令によってあなたが移住するまで、**かれ**はあなたを追放から阻んだ。あなたを追い出したところで、かれらはその後に僅かな時間しか留まることはなかっただろう。

(77)あなたの(追放)後にかれらが僅かな時間しか留まれないという決まりは、あなた以前の使徒たちに対するアッラーの常なる習いだった。使徒が民によって追放されれば、アッラーはかれらに罰を下すのだ。使徒よ、あなたは**われら**の習いに変更を見出さない。それは不変なのである。

(78)礼拝をその時間に、最良の形で行え。ズフルとアスルの礼拝を含む、太陽の正中後に傾き始めた時間から、マグリブとイシャーの礼拝を含む夜更けまで。またファジュルの礼拝を行い、そこでの読誦を長くせよ。ファジュルの礼拝には夜の天使たちと昼の天使たちが立ち会うのだから。

(79)使徒よ、夜の一部で礼拝のために立て。それによって、あなたの位が高められるためである。主が審判の日にあなたを、恐怖の中にある人々への執り成し手とし、過去の者たちからも後世の者たちからも讃えられる、最大の執り成しの立場を授かることを望むのだ。

(80)使徒よ、言え。「主よ、わたしの全ての入り口と出口を、あなたの服従行為とあなたの喜びに適ったものとして下さい。敵への助力となる、あなたからの明白な権威を、わたしにお授け下さい。」

(81)使徒よ、多神教徒たちに言え。「イスラームが到来した。アッラーが約束した勝利が実現し、多神教と不信仰は消滅した。虚妄は真理の前に持ち堪えられず、消え去る。」

(82)**われら**は、無知と不信仰と疑念に対する心の癒しであるクルアーンを下す。それは治療を意図して読誦すれば、身体への癒しともなる。それはそれに則って行う信者にとっては慈悲だが、不信仰者には破滅を上乗せするだけ。かれらはそれを聞けば怒り、嘘呼ばわりし、背を向ける。

(83)**われら**が人間に健康・富といった恩恵を与えれば、感謝と服従に背を向け、高慢にも遠ざかる。だが病気や貧困などに襲われれば、激しく失望し、アッラーの慈悲に絶望する。

(84)使徒よ、全ての人間は各々のやり方で行う。そこには導き、迷いといった自分の状態が反映される。主は最も導かれた道にある者を、最もよく知っている。

(85)使徒よ、啓典の民の不信仰者たちは魂の真実について、あなたに尋ねる。言え。「魂の真実を知るのはアッラーのみ。アッラーの知識に比べれば、あなたがたも、いかなる被造物も、僅かな知識しか与えられてはいない。」

(86)アッラーに誓って。使徒よ、**われら**があなたに下した啓示を奪おうとすれば、胸の中のものも書にあるものも、消し去ってしまっただろう。そうすればあなたには、それを阻止してくれる者などいないのだ。

本諸節の功徳:

●一連のアーヤには、僕がアッラーから確固とした信仰を授かることが不可欠であり、そのために主に懇願し続ける必要があることが示されている。
●真理が出現すれば虚妄は消滅する。真理の徒が怠慢な時代や場所でないと、虚妄は栄えない。
●クルアーンによる癒しは、疑念、無知、悪い考えや行い、悪い意図など心の癒しをも含む。
●何かを尋ねられても、それが本人の福利に適うことでなければ答えを控えておき、質問者の役に立つことを指南しておくに留めておくことの優先性。

إِلَّا رَحْمَةً مِّن رَّبِّكَ ۚ إِنَّ فَضْلَهُۥ كَانَ عَلَيْكَ كَبِيرًا ﴿٨٧﴾ قُل
لَّئِنِ ٱجْتَمَعَتِ ٱلْإِنسُ وَٱلْجِنُّ عَلَىٰٓ أَن يَأْتُوا۟ بِمِثْلِ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ
لَا يَأْتُونَ بِمِثْلِهِۦ وَلَوْ كَانَ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ ظَهِيرًا ﴿٨٨﴾
وَلَقَدْ صَرَّفْنَا لِلنَّاسِ فِى هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ مِن كُلِّ مَثَلٍ فَأَبَىٰٓ أَكْثَرُ
ٱلنَّاسِ إِلَّا كُفُورًا ﴿٨٩﴾ وَقَالُوا۟ لَن نُّؤْمِنَ لَكَ حَتَّىٰ تَفْجُرَ
لَنَا مِنَ ٱلْأَرْضِ يَنۢبُوعًا ﴿٩٠﴾ أَوْ تَكُونَ لَكَ جَنَّةٌ مِّن نَّخِيلٍ
وَعِنَبٍ فَتُفَجِّرَ ٱلْأَنْهَٰرَ خِلَٰلَهَا تَفْجِيرًا ﴿٩١﴾ أَوْ تُسْقِطَ ٱلسَّمَآءَ
كَمَا زَعَمْتَ عَلَيْنَا كِسَفًا أَوْ تَأْتِىَ بِٱللَّهِ وَٱلْمَلَٰٓئِكَةِ
قَبِيلًا ﴿٩٢﴾ أَوْ يَكُونَ لَكَ بَيْتٌ مِّن زُخْرُفٍ أَوْ تَرْقَىٰ فِى ٱلسَّمَآءِ
وَلَن نُّؤْمِنَ لِرُقِيِّكَ حَتَّىٰ تُنَزِّلَ عَلَيْنَا كِتَٰبًا نَّقْرَؤُهُۥ ۗ قُلْ
سُبْحَانَ رَبِّى هَلْ كُنتُ إِلَّا بَشَرًا رَّسُولًا ﴿٩٣﴾ وَمَا مَنَعَ ٱلنَّاسَ
أَن يُؤْمِنُوٓا۟ إِذْ جَآءَهُمُ ٱلْهُدَىٰٓ إِلَّآ أَن قَالُوٓا۟ أَبَعَثَ ٱللَّهُ بَشَرًا
رَّسُولًا ﴿٩٤﴾ قُل لَّوْ كَانَ فِى ٱلْأَرْضِ مَلَٰٓئِكَةٌ يَمْشُونَ مُطْمَئِنِّينَ
لَنَزَّلْنَا عَلَيْهِم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ مَلَكًا رَّسُولًا ﴿٩٥﴾ قُلْ كَفَىٰ بِٱللَّهِ
شَهِيدًۢا بَيْنِى وَبَيْنَكُمْ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ بِعِبَادِهِۦ خَبِيرًۢا بَصِيرًا ﴿٩٦﴾

(87) しかし**われら**がそうせず、あなたを守っておいたのは、主の慈悲によるもの。あなたを使徒とし、預言者の封印とし、クルアーンを啓示した、主のあなたに対する寵愛は偉大である。
多神教徒たちが、このクルアーンが人間の言葉であると主張し、それに変更を施すことを提案した時、アッラーはかれらに対し、クルアーンと同様のものを創ってみよと挑み、こう言った。

(88) 使徒よ、言え。人間とジンが皆集まり、あなたに下されたこのクルアーンとその雄弁さ、構成の秀逸さにおいて同様のものを創ろうとしても、それは絶対に出来ない。たとえお互いに協力し合っても、である。

(89) **われら**はこのクルアーンを人々に明らかにし、かれらが信仰するようにと、それを様々な教訓・学び・命令・禁止・説話で満たした。しかし大半の人々はそれを拒み、クルアーンを否定した。そして自分たちの無力さを知ると、次のような無理難題を押しつけて来たのだ。

(90) 多神教徒たちは言った。わたしたちは、あなたがマッカの地から涸れることのない泉を流れ出させるまで、あなたを信じない。

(91) または、ナツメヤシやブドウのなる、河川が豊かに流れる農園を、あなたが有するまで。

(92) あるいは、あなたが言ったように、天から罰の一部を下すか、またはあなたの主張の正しさを証言する、アッラーと天使たちを連れて来るまでは。

(93) あるいは、金などで装飾された家をあなたが有するか、あなたが昇天するまでは。そしてあなたが天のアッラーの御許から、あなたがアッラーの使徒と書いてある書を持って来るまで、わたしたちはあなたが使徒だと信じない。使徒よ、言え。「主に賛美あれ。わたしは他の使徒たち同様、使徒である人間に過ぎない。何ももたらすことは出来ないし、あなたがたの提案に応じることなど出来るわけもない。」

(94) アッラーとその使徒の信仰と、使徒のもたらしたものの実践から不信仰者たちを阻んだものは、使徒が人間であるわけがないという否定の念だった。かれらは言った。「アッラーがわたしたちに人間の使徒を遣わしたというのか?」

(95) 使徒よ、反論して言え。「地上に天使たちが住み、歩いていたならば、かれらと同様の天使を、かれらへの使徒として遣わしただろう。」それはそうすることで、かれらに理解させることが出来るからであり、かれらに人間の使徒を遣わすことは英知ではない。あなたがたの場合も同様である。

(96) 使徒よ、言え。「わたしがあなたがたへの使徒だということの証人は、アッラーだけで十分。わたしはあなたがたの言語によって、あなたがたへ遣わされた。**かれ**は僕たちの状況を完全に知り尽くし、かれらの心の中の仔細に亘るまでご覧になるお方。」

本諸節の功徳:

●アッラーは人々が信じるようにと、クルアーンの中で教訓・学び・命令・禁止・説話など、戒めとなるものを明らかにした。
●クルアーンはアッラーの言葉であり、預言者の永遠の印である。誰もそれと同様のものを創作することは出来ない。
●アッラーが使徒を同種の人間から遣わしたことは、かれの慈悲である。人間は天使との交信に耐え切れない。
●様々な印による支持、敵対者に対する援助は、アッラーからの使徒への証言である。

وَمَن يَهْدِ ٱللَّهُ فَهُوَ ٱلْمُهْتَدِ ۖ وَمَن يُضْلِلْ فَلَن تَجِدَ لَهُمْ أَوْلِيَآءَ
مِن دُونِهِۦ ۖ وَنَحْشُرُهُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ عَلَىٰ وُجُوهِهِمْ عُمْيًا وَبُكْمًا
وَصُمًّا ۖ مَّأْوَىٰهُمْ جَهَنَّمُ ۖ كُلَّمَا خَبَتْ زِدْنَٰهُمْ سَعِيرًا ﴿٩٧﴾
ذَٰلِكَ جَزَآؤُهُم بِأَنَّهُمْ كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا وَقَالُوٓا۟ أَءِذَا كُنَّا عِظَٰمًا
وَرُفَٰتًا أَءِنَّا لَمَبْعُوثُونَ خَلْقًا جَدِيدًا ﴿٩٨﴾ ۞ أَوَلَمْ يَرَوْا۟ أَنَّ ٱللَّهَ
ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ قَادِرٌ عَلَىٰٓ أَن يَخْلُقَ مِثْلَهُمْ
وَجَعَلَ لَهُمْ أَجَلًا لَّا رَيْبَ فِيهِ فَأَبَى ٱلظَّٰلِمُونَ إِلَّا كُفُورًا ﴿٩٩﴾
قُل لَّوْ أَنتُمْ تَمْلِكُونَ خَزَآئِنَ رَحْمَةِ رَبِّىٓ إِذًا لَّأَمْسَكْتُمْ خَشْيَةَ
ٱلْإِنفَاقِ ۚ وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ قَتُورًا ﴿١٠٠﴾ وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَىٰ تِسْعَ
ءَايَٰتٍۭ بَيِّنَٰتٍ ۖ فَسْـَٔلْ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ إِذْ جَآءَهُمْ فَقَالَ لَهُۥ فِرْعَوْنُ
إِنِّى لَأَظُنُّكَ يَٰمُوسَىٰ مَسْحُورًا ﴿١٠١﴾ قَالَ لَقَدْ عَلِمْتَ مَآ أَنزَلَ
هَٰٓؤُلَآءِ إِلَّا رَبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ بَصَآئِرَ ۖ وَإِنِّى لَأَظُنُّكَ
يَٰفِرْعَوْنُ مَثْبُورًا ﴿١٠٢﴾ فَأَرَادَ أَن يَسْتَفِزَّهُم مِّنَ ٱلْأَرْضِ
فَأَغْرَقْنَٰهُ وَمَن مَّعَهُۥ جَمِيعًا ﴿١٠٣﴾ وَقُلْنَا مِنۢ بَعْدِهِۦ لِبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ
ٱسْكُنُوا۟ ٱلْأَرْضَ فَإِذَا جَآءَ وَعْدُ ٱلْءَاخِرَةِ جِئْنَا بِكُمْ لَفِيفًا ﴿١٠٤﴾

(97)アッラーが正道へと導いた者こそは、本当に導かれた者。使徒よ、**かれ**が見捨てて迷わせた者に対し、真理へと導き、害悪から守り、有益なことをもたらす保護者はいない。**われら**は審判の日、かれらを顔から逆さまにして引っ張られた形で、召喚する。かれらは見ることも、話すことも、聞くことも出来ない。かれらの住処は地獄。その炎が弱まるたび、**われら**はかれらのために火力を加える。

(98)かれらが受けるこの罰は、**われら**の使徒に下された**われら**の印を否定した報いである。また、復活をあり得ないこととし、「わたしたちが死んで朽ちた骨となり、ばらばらになった後、新たな創造として蘇らされるのか?」と言ったため。
かれらの復活に対する頑固な考えが描写された後、アッラーは反論してこう言う:

(99)復活の否定者たちは、壮大な天地を創造したアッラーが、それと同様のものを創造出来ることを知らないのか?偉大なものを創造できる者は、それ以下のものを創造できるのだ。アッラーはかれらに、現世の人生が終わるまでの一定期間と、疑念のない復活までの猶予を設けた。だが復活の数々の証拠があっても、多神教徒たちは復活を否定し拒むのだ。

(100)使徒よ、多神教徒たちに言え。「主の無尽蔵の慈悲という宝庫を持っていたとしても、あなたがたはそれが尽きてしまうことを恐れ、貧困にならないよう、そこから施すことを控えるだろう。」信徒以外、人間の性質というものはけちなもの。信徒はアッラーのご褒美を望んで施すのだ。
預言者が多神教徒たちから嘘つき呼ばわりされた時、ムーサーとフィルアウンとその民についての話が、預言者への慰めとしてやって来る。

(101)**われら**はムーサーに9つの明白な印を与え、かれのために証言させた。それは杖・手・旱魃の年月・収穫の不作・洪水・イナゴ・シラミ・蛙・血である。使徒よ、ユダヤ教徒に尋ねよ。ムーサーがかれらの先祖にそれらの印をもたらした時、フィルアウンはかれに言ったのだ。「ムーサーよ、あなたは奇妙なものをもたらした。わたしはあなたが魔術にかかった者だと思う。」

(102)ムーサーは反論して言った。「フィルアウンよ、その御力を示し、その使徒の正直さを証明するためにこれらの印を下したのが、天地の主アッラーであることをあなたは確信しているのに、それを否定した。フィルアウンよ、わたしはあなたが破滅者であり損失者であることを知っている。」

(103)フィルアウンは、ムーサーとその民をエジプトから追放して罰しようとしたが、われらはかれとその軍勢を皆溺れ死にさせた。

(104)そしてフィルアウンとその軍勢を滅ぼした後、イスラーイールの民に言った。「シャームの地に住め。審判の日が来たら**われら**はあなたがたを、清算のために集合させよう。」

本諸節の功徳:
●導きも迷いもアッラーのみに委ねられる。かれが導いた者が真に導かれた者であり、かれが見捨て、迷わせた者に導きはない。
●不信仰者の住処・定住地は地獄。その炎が弱まるたび、アッラーはその火力を強める。
●抑圧者からの恐怖の際には、アッラーにご加護を求めることの義務。
●抑圧者は真理の徒に対する際、権威や力に頼る。それはかれらに論拠と解明がないからである。

وَبِٱلْحَقِّ أَنزَلْنَٰهُ وَبِٱلْحَقِّ نَزَلَ ۗ وَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ إِلَّا مُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ﴿١٠٥﴾
وَقُرْءَانًا فَرَقْنَٰهُ لِتَقْرَأَهُۥ عَلَى ٱلنَّاسِ عَلَىٰ مُكْثٍ وَنَزَّلْنَٰهُ تَنزِيلًا ﴿١٠٦﴾
قُلْ ءَامِنُوا۟ بِهِۦٓ أَوْ لَا تُؤْمِنُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ مِن قَبْلِهِۦٓ إِذَا يُتْلَىٰ
عَلَيْهِمْ يَخِرُّونَ لِلْأَذْقَانِ سُجَّدًا ﴿١٠٧﴾ وَيَقُولُونَ سُبْحَٰنَ رَبِّنَآ إِن كَانَ
وَعْدُ رَبِّنَا لَمَفْعُولًا ﴿١٠٨﴾ وَيَخِرُّونَ لِلْأَذْقَانِ يَبْكُونَ وَيَزِيدُهُمْ
خُشُوعًا ۩ ﴿١٠٩﴾ قُلِ ٱدْعُوا۟ ٱللَّهَ أَوِ ٱدْعُوا۟ ٱلرَّحْمَٰنَ ۖ أَيًّا مَّا تَدْعُوا۟ فَلَهُ
ٱلْأَسْمَآءُ ٱلْحُسْنَىٰ ۚ وَلَا تَجْهَرْ بِصَلَاتِكَ وَلَا تُخَافِتْ بِهَا وَٱبْتَغِ
بَيْنَ ذَٰلِكَ سَبِيلًا ﴿١١٠﴾ وَقُلِ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى لَمْ يَتَّخِذْ وَلَدًا وَلَمْ يَكُن
لَّهُۥ شَرِيكٌ فِى ٱلْمُلْكِ وَلَمْ يَكُن لَّهُۥ وَلِىٌّ مِّنَ ٱلذُّلِّ ۖ وَكَبِّرْهُ تَكْبِيرًۢا ﴿١١١﴾

سَجْدَة

سُورَةُ الكَهْفِ

ترتيبها ١٨ — آياتها ١١٠

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سكتة لطيفة على الألف

ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِىٓ أَنزَلَ عَلَىٰ عَبْدِهِ ٱلْكِتَٰبَ وَلَمْ يَجْعَل لَّهُۥ عِوَجَا ۜ
﴿١﴾ قَيِّمًا لِّيُنذِرَ بَأْسًا شَدِيدًا مِّن لَّدُنْهُ وَيُبَشِّرَ ٱلْمُؤْمِنِينَ
ٱلَّذِينَ يَعْمَلُونَ ٱلصَّٰلِحَٰتِ أَنَّ لَهُمْ أَجْرًا حَسَنًا ﴿٢﴾
مَّٰكِثِينَ فِيهِ أَبَدًا ﴿٣﴾ وَيُنذِرَ ٱلَّذِينَ قَالُوا۟ ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ وَلَدًا ﴿٤﴾

(105)**われら**は真理によってムハンマドにクルアーンを下し、真理によって改ざんもなく啓示した。使徒よ、**われら**はあなたを、敬虔な者たちに対しては天国の吉報者とし、不信仰で罪深い者たちに対しては地獄の警告者として遣わした。

(106)**われら**はクルアーンを啓示し、それを詳しく説明した。それはあなたが、それを人々に対してゆっくりと読誦するためであり、そうすることでより理解と熟慮が得られるのだ。また**われら**はそれを状況に応じ、分割して啓示した。

(107)使徒よ、言え。「それを信じよ。しかしあなたがたの信仰によって、そこに何か付け加えられるわけではない。また、それを信じなくても、あなたがたの不信仰によって、そこから何か減らされるわけでもない。過去の啓典を読み、啓示と預言者について知っている者たちは、クルアーンが読誦されれば感謝し、顔を伏せてアッラーにサジダする。

(108)そしてサジダの中で言うのだ。「主は約束の不履行から無縁なお方。ムハンマドを遣わすという約束は果たされる。主の約束はそのことでもそれ以外でも、必ず実現するのだ。」

(109)かれらは顔を伏せてアッラーにサジダし、恐れから涙を流す。クルアーンを聞き、その意味を理解することにより、かれらにはアッラーへの更なる服従と恐れが増すのだ。

(110)使徒よ、「アッラーよ、慈悲あまねきお方よ」というあなたの祈願の言葉を否定する者に、言え。「アッラーと慈悲あまねきお方という二つの美名は、**かれ**に属する。だからそのいずれでも、またはそれ以外の**かれ**の美名ででも、**かれ**を呼ぶがよい。礼拝の中では、多神教徒たちに聞こえる位に読誦を声高にしてもならないし、信徒に聞こえない位に声を低めてもならない。その中間を心がけよ。」

(111)使徒よ、言え。「アッラーに称賛あれ。**かれ**こそは全ての称賛に値する。**かれ**は子供や共同者を持つといったことから無縁であり、その主権において共有者はいない。不面目を被ることもないため、援助者や威厳を与えてくる者なども必要としない。**かれ**の偉大さを讃え、**かれ**に子供とか、その主権における共有者とか、援助者があるなどとしてはならない。」

18. 洞窟章(アル・カハフ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

試練に対する対処法の説明。

説明:

(1)完全かつ偉大な属性、および外面的・内面的な恩恵のための賛美は、アッラーだけに属する。かれはその僕であり使徒であるムハンマドにクルアーンを下し、それに真理からの逸脱をもたらさなかった。

(2)そうではなく、それをいかなる矛盾もない真っ直ぐなものとした。**かれ**はそれで、かれらを待ち受けるアッラーからの強力な罰により、不信仰者たちを恐れさせる。他方、善行を行う信徒たちには、いかなるものも比肩しないご褒美についての嬉しい知らせを伝える。

(3)かれらは、途絶えることのないこのご褒美の中に、永遠に住まう。

(4)また**かれ**は、「アッラーには子供がある」と言った、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ある種の多神教徒たちにも警告する。

本諸節の功徳:

●アッラーが啓示したクルアーンは、真理・公正・法規定・最善の英知を含んでいる。
●アッラーに対する恐れから、礼拝中に涙を流すことの合法性。
●礼拝中の祈願や読誦は、声を上げすぎもせず低めすぎもせず、その中間とすべきである。
●クルアーンには、心と魂が喜びを感じるような、あらゆる善行が含まれている。

مَّا لَهُم بِهِۦ مِنْ عِلْمٍ وَلَا لِءَابَآئِهِمْ ۚ كَبُرَتْ كَلِمَةً تَخْرُجُ مِنْ
أَفْوَٰهِهِمْ ۚ إِن يَقُولُونَ إِلَّا كَذِبًا ﴿٥﴾ فَلَعَلَّكَ بَٰخِعٌ نَّفْسَكَ
عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِمْ إِن لَّمْ يُؤْمِنُوا۟ بِهَٰذَا ٱلْحَدِيثِ أَسَفًا ﴿٦﴾ إِنَّا
جَعَلْنَا مَا عَلَى ٱلْأَرْضِ زِينَةً لَّهَا لِنَبْلُوَهُمْ أَيُّهُمْ أَحْسَنُ عَمَلًا
﴿٧﴾ وَإِنَّا لَجَٰعِلُونَ مَا عَلَيْهَا صَعِيدًا جُرُزًا ﴿٨﴾ أَمْ حَسِبْتَ
أَنَّ أَصْحَٰبَ ٱلْكَهْفِ وَٱلرَّقِيمِ كَانُوا۟ مِنْ ءَايَٰتِنَا عَجَبًا ﴿٩﴾
إِذْ أَوَى ٱلْفِتْيَةُ إِلَى ٱلْكَهْفِ فَقَالُوا۟ رَبَّنَآ ءَاتِنَا مِن لَّدُنكَ
رَحْمَةً وَهَيِّئْ لَنَا مِنْ أَمْرِنَا رَشَدًا ﴿١٠﴾ فَضَرَبْنَا عَلَىٰٓ ءَاذَانِهِمْ
فِى ٱلْكَهْفِ سِنِينَ عَدَدًا ﴿١١﴾ ثُمَّ بَعَثْنَٰهُمْ لِنَعْلَمَ أَىُّ
ٱلْحِزْبَيْنِ أَحْصَىٰ لِمَا لَبِثُوٓا۟ أَمَدًا ﴿١٢﴾ نَّحْنُ نَقُصُّ عَلَيْكَ نَبَأَهُم
بِٱلْحَقِّ ۚ إِنَّهُمْ فِتْيَةٌ ءَامَنُوا۟ بِرَبِّهِمْ وَزِدْنَٰهُمْ هُدًى ﴿١٣﴾
وَرَبَطْنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ إِذْ قَامُوا۟ فَقَالُوا۟ رَبُّنَا رَبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضِ لَن نَّدْعُوَا۟ مِن دُونِهِۦٓ إِلَٰهًا ۖ لَّقَدْ قُلْنَآ إِذًا شَطَطًا ﴿١٤﴾
هَٰٓؤُلَآءِ قَوْمُنَا ٱتَّخَذُوا۟ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةً ۖ لَّوْلَا يَأْتُونَ عَلَيْهِم
بِسُلْطَٰنٍۭ بَيِّنٍ ۖ فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا ﴿١٥﴾

⑤これらの嘘つきたちには、アッラーには子供があるという主張について、いかなる知識も証拠もないし、かれらが踏襲したかれらの先祖も同様である。考えもせず発せられる、かれらのこのような言葉は醜いこと極まりない。かれらの言葉はいかなる根拠もない嘘である。

⑥使徒よ、かれらがこのクルアーンを信じなければ、あなたは悲しみと悔しさで自分自身を滅ぼすかのようだろう。だが、そうはするな。かれらを導くことはあなたの義務ではなく、あなたはただ伝達するだけなのだ。

⑦地上にある被造物を美しくしたのは、あなたがたの誰が最もよい行いをしてアッラーを喜ばせるか、また誰が最悪の行いか、試練にかけるため。**われら**はいずれの者にも、相応の報いを与える。

⑧また**われら**は地上にある被造物を、その生命が終わった後に、植物のない砂地としてしまう。そのことを、よく教訓とせよ。

⑨使徒よ、洞窟の人々と、かれらの名が刻まれた碑板の話を、**われら**の驚くべき印だと思うのではない。天地の創造など、それよりも驚くべきことはあるのだ。

⑩使徒よ、信仰者の若者たちが、自分たちの宗教のために避難した時のことを思い出せ。かれらは主に祈って言った。「主よ、わたしたちにあなたからの慈悲を授け、わたしたちの罪を赦し、わたしたちを敵から救って下さい。不信仰者たちからの避難と信仰によって、わたしたちを真理の道へと導いて下さい。」

⑪かれらが洞窟に避難した後、**われら**はかれらの耳を音から遮断し、長年の間眠りにつかせた。

⑫それから長い眠りの後、**われら**はかれらを目覚めさせた。洞窟の中で眠っていた期間について議論し合う二派の内、いずれがその期間についてよく知っているか、判別するためであった。

⑬使徒よ、**われら**はあなたに、かれらについての疑念のない真実の話を知らせる。かれらは主を信じて服従した信仰者であり、**われら**が導いて真理の上に確固とさせた者たちである。

⑭かれらが不信仰の王の前で、アッラーだけを信仰することを宣言した時、われらは**かれら**の心を信仰心で強めて堅固にし、故郷を離れる忍耐心を授けた。かれらは(王の前で)言った。「わたしたちが信じ崇拝する主は、天地の主。わたしたちはかれ以外の偽の神々を崇拝したりはしない。もしそのようなことをすれば、わたしたちは真理から遠くかけ離れた不正な言葉を語ってしまうことになる。」

⑮それからかれらは、お互いの方を見て言った。「わたしたちの民はアッラー以外のものを崇拝してしまった。かれらはそれらの崇拝において、いかなる明証も有してはいない。アッラーに同位者があるなどと嘘の主張をする者より、ひどい不正を行う者があろうか?」

本諸節の功徳:

●アッラーへと招く者は伝道し、可能な限り努力しなければならないが、同時にアッラーに全てを任せる必要がある。それで人々が導かれれば素晴らしいが、そうならなくても悲しんだり悔んだりすべきではない。
●洞窟の人々が滞在した期間の知識には、計算の確かさ、アッラーの完全な御力と英知と慈悲がある。
●一連のアーヤには、宗教のために避難し、試練を恐れて家族・子供・親戚・友人・故郷・財産を置いて移住することの根拠がある。
●若者の教育の重要性。若者は心が清純で、熱意にあふれており、社会の興隆がかかっているからである。

وَإِذِ ٱعۡتَزَلۡتُمُوهُمۡ وَمَا يَعۡبُدُونَ إِلَّا ٱللَّهَ فَأۡوُۥٓاْ إِلَى ٱلۡكَهۡفِ
يَنشُرۡ لَكُمۡ رَبُّكُم مِّن رَّحۡمَتِهِۦ وَيُهَيِّئۡ لَكُم مِّنۡ أَمۡرِكُم مِّرۡفَقٗا
١٦ ۞ وَتَرَى ٱلشَّمۡسَ إِذَا طَلَعَت تَّزَٰوَرُ عَن كَهۡفِهِمۡ ذَاتَ
ٱلۡيَمِينِ وَإِذَا غَرَبَت تَّقۡرِضُهُمۡ ذَاتَ ٱلشِّمَالِ وَهُمۡ فِي فَجۡوَةٖ
مِّنۡهُۚ ذَٰلِكَ مِنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِۗ مَن يَهۡدِ ٱللَّهُ فَهُوَ ٱلۡمُهۡتَدِۖ وَمَن
يُضۡلِلۡ فَلَن تَجِدَ لَهُۥ وَلِيّٗا مُّرۡشِدٗا ١٧ وَتَحۡسَبُهُمۡ أَيۡقَاظٗا
وَهُمۡ رُقُودٞۚ وَنُقَلِّبُهُمۡ ذَاتَ ٱلۡيَمِينِ وَذَاتَ ٱلشِّمَالِۖ وَكَلۡبُهُم
بَٰسِطٞ ذِرَاعَيۡهِ بِٱلۡوَصِيدِۚ لَوِ ٱطَّلَعۡتَ عَلَيۡهِمۡ لَوَلَّيۡتَ مِنۡهُمۡ
فِرَارٗا وَلَمُلِئۡتَ مِنۡهُمۡ رُعۡبٗا ١٨ وَكَذَٰلِكَ بَعَثۡنَٰهُمۡ
لِيَتَسَآءَلُواْ بَيۡنَهُمۡۚ قَالَ قَآئِلٞ مِّنۡهُمۡ كَمۡ لَبِثۡتُمۡۖ قَالُواْ لَبِثۡنَا
يَوۡمًا أَوۡ بَعۡضَ يَوۡمٖۚ قَالُواْ رَبُّكُمۡ أَعۡلَمُ بِمَا لَبِثۡتُمۡ فَٱبۡعَثُوٓاْ
أَحَدَكُم بِوَرِقِكُمۡ هَٰذِهِۦٓ إِلَى ٱلۡمَدِينَةِ فَلۡيَنظُرۡ أَيُّهَآ أَزۡكَىٰ
طَعَامٗا فَلۡيَأۡتِكُم بِرِزۡقٖ مِّنۡهُ وَلۡيَتَلَطَّفۡ وَلَا يُشۡعِرَنَّ
بِكُمۡ أَحَدًا ١٩ إِنَّهُمۡ إِن يَظۡهَرُواْ عَلَيۡكُمۡ يَرۡجُمُوكُمۡ
أَوۡ يُعِيدُوكُمۡ فِي مِلَّتِهِمۡ وَلَن تُفۡلِحُوٓاْ إِذًا أَبَدٗا ٢٠

(16)あなたがたは民から逃れ、かれらがアッラーをよそに崇拝しているものを放棄したが、あなたがたはそもそもアッラー以外のものを崇拝してはいなかった。宗教のために洞窟へと避難すれば、主はあなたがたに慈悲を垂れ、敵から守ってくれよう。また民の中で生活することの代わりに、あなたがたの利に適うことへと物事を容易にして下さろう。

(17)かれらは命じられた通りにし、アッラーはかれらを眠らせ、敵から守った。かれらを目にした者は、太陽が東から昇れば洞窟内部の右側へと傾き、沈む時には左側へと傾くのを見たであろう。こうして太陽はかれらに当たることなく、かれらはその熱に晒されることなく、ずっと影の中にいたのだ。また洞窟は広く、必要な空気を得ることが出来た。洞窟への避難、眠り、太陽の傾き、場所の広さ、民からの救出といったことは、アッラーの御力を示す驚異的な采配である。アッラーが導きの道へと導いた者こそは、真に導かれた者。**かれ**に見捨てられ、迷わされた者には、その道へと援助し導いてくれる者はいない。導きはアッラーだけに属するのだ。

(18)かれらを見る者よ、かれらは眠っているにも関わらず目を開いていたため、あなたはかれらが起きていると思っただろう。かれらが寝ている間、**われら**はかれらを右に左に転がしたが、それはかれらの体が地面に侵食されないようにするためだった。かれらに同行していた犬は、洞窟の入り口で前足を伸ばしていた。かれらを目にしたなら、あなたはかれらへの恐怖のために背を向けて逃げ出しただろう。

(19)かれらに対して**われら**の驚異的な力を示したのと同様、**われら**は長い時間が過ぎた後にかれらを目覚めさせた。かれらは互いにどれ位眠っていたのか尋ね合い、ある者たちは言った。「一日か、一日の一部だけ眠っていたのだ。」また別の者たちはその時間が分からず、言った。「あなた方が寝て過ごした期間については、主が最もよくご存じである。だからそのことは**かれ**に任せて、自分たちにとって重要なことをせよ。あなた方の誰かをこの銀貨を持ってわたしたちの町に行かせ、最もよい食べ物と衣服を持っている者を探させ、そこから糧を持ってこさせ、注意深く出入りややり取りをさせよ。誰にもあなた方の場所を知らせてはならない。そうすれば大きな害悪が生じよう。

(20)もしあなたがたの民があなたがたの場所を知ったら、石を投げてあなたがたを殺すか、またはかれらの逸脱した宗教へと引き戻してしまうだろう。あなたがたは以前その宗教にあったが、アッラーがお恵みをかけて真理の宗教へと導いてくれたのだ。もしその宗教へと戻ってしまえば、あなたがたは現世でも来世でも絶対に成功することはない。それどころか、アッラーによって導かれた真理の宗教を棄てて間違った宗教へと戻ることにより、現世と来世において大きな損失を被るだろう。」

本諸節の功徳:

●地面に体が侵食されない程度に、アッラーがかれらを左右に転がしたのは、かれの御力と英知によるものであり、アッラーからの僕たちに対する教訓である。
●必要性・狩猟・番犬といった理由で犬を飼うことの合法性。
●自分自身がその位階にまで達してはいなくても、善良な人々や正しい者たちと共にあることの有益さ。ここで犬が言及されているのは、優れた人々と同伴していたためである。
●一連のアーヤは委任の合法性、よい采配、人々とよい付き合いをすることを示している。

وَكَذَٰلِكَ أَعۡثَرۡنَا عَلَيۡهِمۡ لِيَعۡلَمُوٓاْ أَنَّ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞ وَأَنَّ
ٱلسَّاعَةَ لَا رَيۡبَ فِيهَآ إِذۡ يَتَنَٰزَعُونَ بَيۡنَهُمۡ أَمۡرَهُمۡۖ فَقَالُواْ
ٱبۡنُواْ عَلَيۡهِم بُنۡيَٰنٗاۖ رَّبُّهُمۡ أَعۡلَمُ بِهِمۡۚ قَالَ ٱلَّذِينَ غَلَبُواْ عَلَىٰٓ
أَمۡرِهِمۡ لَنَتَّخِذَنَّ عَلَيۡهِم مَّسۡجِدٗا ٢١ سَيَقُولُونَ ثَلَٰثَةٞ
رَّابِعُهُمۡ كَلۡبُهُمۡ وَيَقُولُونَ خَمۡسَةٞ سَادِسُهُمۡ كَلۡبُهُمۡ
رَجۡمَۢا بِٱلۡغَيۡبِۖ وَيَقُولُونَ سَبۡعَةٞ وَثَامِنُهُمۡ كَلۡبُهُمۡۚ قُل رَّبِّيٓ
أَعۡلَمُ بِعِدَّتِهِم مَّا يَعۡلَمُهُمۡ إِلَّا قَلِيلٞۗ فَلَا تُمَارِ فِيهِمۡ إِلَّا مِرَآءٗ
ظَٰهِرٗا وَلَا تَسۡتَفۡتِ فِيهِم مِّنۡهُمۡ أَحَدٗا ٢٢ وَلَا تَقُولَنَّ لِشَاْيۡءٍ
إِنِّي فَاعِلٞ ذَٰلِكَ غَدًا ٢٣ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ وَٱذۡكُر رَّبَّكَ
إِذَا نَسِيتَ وَقُلۡ عَسَىٰٓ أَن يَهۡدِيَنِ رَبِّي لِأَقۡرَبَ مِنۡ هَٰذَا رَشَدٗا
٢٤ وَلَبِثُواْ فِي كَهۡفِهِمۡ ثَلَٰثَ مِاْئَةٖ سِنِينَ وَٱزۡدَادُواْ تِسۡعٗا
٢٥ قُلِ ٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِمَا لَبِثُواْۖ لَهُۥ غَيۡبُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ
أَبۡصِرۡ بِهِۦ وَأَسۡمِعۡۚ مَا لَهُم مِّن دُونِهِۦ مِن وَلِيّٖ وَلَا يُشۡرِكُ
فِي حُكۡمِهِۦٓ أَحَدٗا ٢٦ وَٱتۡلُ مَآ أُوحِيَ إِلَيۡكَ مِن كِتَابِ
رَبِّكَۖ لَا مُبَدِّلَ لِكَلِمَٰتِهِۦ وَلَن تَجِدَ مِن دُونِهِۦ مُلۡتَحَدٗا ٢٧

㉑かれらを長年の眠りの後に目覚めさせるといった、**われら**の威力を示す驚異的なことを行ったのと同様、**われら**は町の人々にかれらを発見させた。それは信徒に対するアッラーの援助と復活の約束、審判の日の到来が真実であることを、町の人々が知るためだった。そして洞窟の人々が発見された後に死んでしまった時、かれらの発見者たちはかれらをどうするかで意見を異ならせた。ある者たちは言った。「洞窟の入り口のところに建物を建て、かれらを隔離し、守るのだ。主はかれらの状態をよくご存知であり、かれらの状態はかれのもとで特別な地位に値する。」他方、知識も正しい呼びかけもない権力者たちは、言った。「わたしたちはかれらの場所に、崇拝のためのマスジドを建てよう。それはかれらへの称賛と記念のためである。」

㉒かれらの数について首を突っ込む者たちは、言うだろう。「かれらは3人で、犬が4人目だった。」また別の者たちは言う。「かれらは5人で、犬が6人目だった。」いずれの者たちも、証拠もなく憶測によってそう言うのだ。そして別の者たちは言う。「かれらは7人で、犬が8人目だった。」使徒よ、言え。「主が、かれらの数をよくご存知。アッラーからそれについて知識を授かった僅かな者たちしか、かれらの数を知らない。だからかれらの数や状況について、啓典の民やその他の者たちと議論するのではない。」ただし、かれらのことに関してあなたに下された啓示内のことに留め、深く立ち入らずに表面上の議論をするのは別である。また、かれらの詳細について、かれらに尋ねてもならない。かれらは知らないのだから。

㉓預言者よ、明日行おうとすることに関して、「わたしは明日これを行う」と言ってはならない。なぜなら、あなたは明日そうすることが出来るか出来ないか、分からないからだ。これは全てのムスリムに対する指示である。

㉔ただし、「わたしは明日これを行う、インシャーアッラー(アッラーがお望みなら)」と、アッラーのご意思を条件づけるなら別である。それを言うのを忘れてしまったら、「インシャーアッラー」という言葉で主を思い出し、言え。「主がこれよりも、わたしを導きに近づけてくれることを望む。」

㉕洞窟の人々は洞窟の中で、309年過ごした。

㉖使徒よ、言え。「かれらが洞窟で過ごしたことについては、アッラーがよくご存知。**かれ**がわたしたちに、その期間を教えてくれた。**かれ**の言葉の後に、誰も何も言うことは出来ない。**かれ**のみにこそ、創造であれ知識であれ、天地の秘密は属する。**かれ**は何とよくご覧になり、よくお聞きになることか。**かれ**の他にはかれらの物事を司る保護者はなく、**かれ**の裁定に参与する者もいない。**かれ**は裁定における唯一者である。」
かれのみに裁定が属することが説明された後、**かれ**は使徒に対して裁定の啓示を読誦し、それに従うことを命じ、言う。

㉗使徒よ、アッラーがあなたに啓示したクルアーンを読み、それに従って行え。**かれ**の言葉は全て真実で、全て公正であり、変更はない。あなたには**かれ**の他に、いかなる避難所も保護者もない。

本諸節の功徳:

●墓の上にマスジドその他を建設したり、そこで礼拝したりすることは許されない。
●この逸話の中には、アッラーにとって墓場からの復活・召集・清算が可能であることの証明がある。
●一連のアーヤは、称賛される議論とは、よい形によって行われる議論であることが示されている。
●未来の出来事をアッラーの意思に委ねておくことが、スンナと礼儀作法に則ったことである。

وَٱصۡبِرۡ نَفۡسَكَ مَعَ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ رَبَّهُم بِٱلۡغَدَوٰةِ وَٱلۡعَشِيِّ
يُرِيدُونَ وَجۡهَهُۥۖ وَلَا تَعۡدُ عَيۡنَاكَ عَنۡهُمۡ تُرِيدُ زِينَةَ ٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَاۖ وَلَا تُطِعۡ مَنۡ أَغۡفَلۡنَا قَلۡبَهُۥ عَن ذِكۡرِنَا وَٱتَّبَعَ هَوَىٰهُ وَكَانَ
أَمۡرُهُۥ فُرُطًا ٢٨ وَقُلِ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكُمۡۖ فَمَن شَآءَ فَلۡيُؤۡمِن وَمَن
شَآءَ فَلۡيَكۡفُرۡۚ إِنَّآ أَعۡتَدۡنَا لِلظَّٰلِمِينَ نَارًا أَحَاطَ بِهِمۡ سُرَادِقُهَاۚ
وَإِن يَسۡتَغِيثُواْ يُغَاثُواْ بِمَآءٖ كَٱلۡمُهۡلِ يَشۡوِي ٱلۡوُجُوهَۚ بِئۡسَ
ٱلشَّرَابُ وَسَآءَتۡ مُرۡتَفَقًا ٢٩ إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ إِنَّا لَا نُضِيعُ أَجۡرَ مَنۡ أَحۡسَنَ عَمَلًا ٣٠ أُوْلَٰٓئِكَ
لَهُمۡ جَنَّٰتُ عَدۡنٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهِمُ ٱلۡأَنۡهَٰرُ يُحَلَّوۡنَ فِيهَا مِنۡ أَسَاوِرَ
مِن ذَهَبٖ وَيَلۡبَسُونَ ثِيَابًا خُضۡرٗا مِّن سُندُسٖ وَإِسۡتَبۡرَقٖ مُّتَّكِـِٔينَ
فِيهَا عَلَى ٱلۡأَرَآئِكِۚ نِعۡمَ ٱلثَّوَابُ وَحَسُنَتۡ مُرۡتَفَقًا ٣١ ۞ وَٱضۡرِبۡ
لَهُم مَّثَلٗا رَّجُلَيۡنِ جَعَلۡنَا لِأَحَدِهِمَا جَنَّتَيۡنِ مِنۡ أَعۡنَٰبٖ وَحَفَفۡنَٰهُمَا
بِنَخۡلٖ وَجَعَلۡنَا بَيۡنَهُمَا زَرۡعٗا ٣٢ كِلۡتَا ٱلۡجَنَّتَيۡنِ ءَاتَتۡ أُكُلَهَا وَلَمۡ
تَظۡلِم مِّنۡهُ شَيۡـٔٗاۚ وَفَجَّرۡنَا خِلَٰلَهُمَا نَهَرٗا ٣٣ وَكَانَ لَهُۥ ثَمَرٞ فَقَالَ
لِصَٰحِبِهِۦ وَهُوَ يُحَاوِرُهُۥٓ أَنَا۠ أَكۡثَرُ مِنكَ مَالٗا وَأَعَزُّ نَفَرٗا ٣٤

(28)昼の始まりと終わりに、主に対して祈りと崇拝行為を真摯に捧げる者たちと、共にあれ。富や名声ある人々との同席を望み、あなたの目をかれらから離してはならない。また、**われら**から心を封印されて、**われら**を念じることをおろそかにし、貧者たちをあなたとの同席から遠ざけるよう命じ、主の服従より自分の欲望の追求を優先させた者に従ってはならない。かれの行いは無駄になるのだから。

(29)使徒よ、アッラーを念じることをおろそかにする、それらの者たちに言え。「わたしがもたらしたものは真実。それはわたしではなく、アッラーからのもの。わたしはあなたがたの要望に応じて、信徒を追い出したりはしない。この真理を信じたい者には信じさせ、否定したい者には否定させよ。かれ(否定者)は、待ち受ける罰で苦しむことになろう。不信仰を選ぶことで自らに不正を働く者たちに対し、**われら**は地獄の罰を準備した。その火は壁となってかれらを取り囲む。ひどい渇きによって水を求めても、かれらが得るのは煮えたぎる汚れた油のような水だけ。かれらが与えられる飲み物の、忌々しいこと。それは渇きを癒すどころか増すばかりで、かれらの肌を焼く炎が消えることはない。地獄はかれらの住処と定着地として最悪である。」
不正者たちに準備された罰が言及された後、信徒たちに準備された素晴らしいご褒美が言及される。

(30)アッラーを信じ、善行を行った者たちには、偉大なご褒美がある。**われら**はよい行いをした者の行いを無駄にはしない。それどころか報いを減らすことなく、完全に与える。

(31)信仰と善行に特徴づけられたそれらの者たちには、永遠の天国がある。かれらの住まいの下からは美味なる河川が流れる。かれらは黄金の腕輪で飾られ、きめ細かい絹やきめの粗い絹で作られた緑色の衣装を着て、美しい垂れ布で装飾された寝台に寄りかかる。かれらの衣服は美しく、天国はかれらの住まいと定着地として最良である。
不正者たちと信徒たちの報いが説明された後、アッラーは両者に対する例えを挙げる。

(32)使徒よ、2人の男の例を挙げよ。一方は不信仰者、もう一方は信仰者。**われら**は不信仰者の方に二つのブドウ農園を与え、その周りをナツメヤシの木で囲み、そこに隙間なく農作物を生育させた。

(33)いずれの農園も、ナツメヤシ、ブドウ、農作物を実らせた。何の不足もなく、完全なものをもたらした。また**われら**はその間に河川を流し、容易に給水がなされるようにした。

(34)二つの農園の主には他の財産と果実もあった。かれは、信仰者である連れ合いに対して、得意げに言った。「わたしはあなたより財産も力もあるし、親族も強い。」

本諸節の功徳:
●たとえ貧しくても、善良な者たちと共にあること、そのための努力の徳。そこには数え切れないほどの利益がある。
●心を込めてアッラーを頻繁に念じることは、年齢と時間に祝福をもたらす。
●ご褒美と救いの基本は、信仰と善行である。アッラーはその二つに対し、現世と来世でのご褒美を授ける。

وَدَخَلَ جَنَّتَهُۥ وَهُوَ ظَالِمٌ لِّنَفْسِهِۦ قَالَ مَآ أَظُنُّ أَن تَبِيدَ هَٰذِهِۦٓ
أَبَدًا ﴿٣٥﴾ وَمَآ أَظُنُّ ٱلسَّاعَةَ قَآئِمَةً وَلَئِن رُّدِدتُّ إِلَىٰ رَبِّى لَأَجِدَنَّ
خَيْرًا مِّنْهَا مُنقَلَبًا ﴿٣٦﴾ قَالَ لَهُۥ صَاحِبُهُۥ وَهُوَ يُحَاوِرُهُۥٓ أَكَفَرْتَ
بِٱلَّذِى خَلَقَكَ مِن تُرَابٍ ثُمَّ مِن نُّطْفَةٍ ثُمَّ سَوَّىٰكَ رَجُلًا ﴿٣٧﴾
لَّٰكِنَّا۠ هُوَ ٱللَّهُ رَبِّى وَلَآ أُشْرِكُ بِرَبِّىٓ أَحَدًا ﴿٣٨﴾ وَلَوْلَآ إِذْ دَخَلْتَ
جَنَّتَكَ قُلْتَ مَا شَآءَ ٱللَّهُ لَا قُوَّةَ إِلَّا بِٱللَّهِ ۚ إِن تَرَنِ أَنَا۠ أَقَلَّ مِنكَ
مَالًا وَوَلَدًا ﴿٣٩﴾ فَعَسَىٰ رَبِّىٓ أَن يُؤْتِيَنِ خَيْرًا مِّن جَنَّتِكَ وَيُرْسِلَ
عَلَيْهَا حُسْبَانًا مِّنَ ٱلسَّمَآءِ فَتُصْبِحَ صَعِيدًا زَلَقًا ﴿٤٠﴾ أَوْ يُصْبِحَ
مَآؤُهَا غَوْرًا فَلَن تَسْتَطِيعَ لَهُۥ طَلَبًا ﴿٤١﴾ وَأُحِيطَ بِثَمَرِهِۦ
فَأَصْبَحَ يُقَلِّبُ كَفَّيْهِ عَلَىٰ مَآ أَنفَقَ فِيهَا وَهِىَ خَاوِيَةٌ عَلَىٰ
عُرُوشِهَا وَيَقُولُ يَٰلَيْتَنِى لَمْ أُشْرِكْ بِرَبِّىٓ أَحَدًا ﴿٤٢﴾ وَلَمْ تَكُن لَّهُۥ
فِئَةٌ يَنصُرُونَهُۥ مِن دُونِ ٱللَّهِ وَمَا كَانَ مُنتَصِرًا ﴿٤٣﴾ هُنَالِكَ ٱلْوَلَٰيَةُ
لِلَّهِ ٱلْحَقِّ ۚ هُوَ خَيْرٌ ثَوَابًا وَخَيْرٌ عُقْبًا ﴿٤٤﴾ وَٱضْرِبْ لَهُم مَّثَلَ ٱلْحَيَوٰةِ
ٱلدُّنْيَا كَمَآءٍ أَنزَلْنَٰهُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ فَٱخْتَلَطَ بِهِۦ نَبَاتُ ٱلْأَرْضِ
فَأَصْبَحَ هَشِيمًا تَذْرُوهُ ٱلرِّيَٰحُ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ مُّقْتَدِرًا ﴿٤٥﴾

(35)不信仰者は信仰者と共に自分の農園に入り、それを見せた。かれは不信仰と自惚れにより、自分自身に不正を犯していた。不信仰者は言った。「あなたが見ているこの農園がなくなるとは思えない。わたしはそれが存続するための処置を施しているのだ。

(36)わたしは審判の日が起こるとも思わない。人生は続くのだ。もしそれが起こって復活し、主のところへ戻らされたとしても、わたしにはこの農園よりもよいものがあるだろう。現世でも豊かな者は復活後も豊かなのだ。」

(37)連れ合いの信仰者は、繰り返して言った。「あなたの父祖アーダムを土から創造し、そしてあなたを精液から創造して人間の男性とし、各部位を整えて完全な形としたお方を否定するのか?それがお出来のお方は、あなたを蘇らせることもお出来なのに。

(38)わたしはあなたの言うようなことは言わない。しかしこう言うのだ。『わたしたちに恩恵を授けてくれるアッラーこそ、わが主。わたしは崇拝において、**かれ**に誰も並べない。』

(39)そして農園に入った時、あなたはこう言わないのか?『マーシャー・アッラー(これはアッラーが望んだこと)。アッラーの他にはいかなる力も属さない。』**かれ**こそはお望みのことを行う、強いお方なのだ。たとえ、あなたがわたしをあなたより貧しく、子供も少ない者だと見なしたとしても。

(40)わたしは、アッラーがあなたの農園よりもよいものをわたしに授け、あなたの農園には天からの罰を送ると思う。そしてそれは植物もなく、つるつるで足が滑るほどの地面となってしまうだろう。

(41)あるいは、その水が地上にあふれ、あなたはそこへ行けなくなってしまうだろう。水があふれれば、農園も終わりなのだ。」

(42)こうして信仰者が予想したことが実現し、不信仰者の農園の果実を破滅が包囲した。不信仰者は手のひらを上げて、農園の設営と整備に費やした財産をひどく悔やんだ。農園はぶどうの木の枝が伸びる棚もろとも、崩れ落ちた。かれは言った。「主だけを信じ、誰のことも並べずに崇拝していればよかった。」

(43)この不信仰者は自分の集団を自慢にしていたが、かれにはかれを襲った罰から守ってくれる集団もなかった。かれ自身、アッラーによる農園の破滅を阻むことは出来なかった。

(44)この状況において、助けはアッラーにのみ属する。**かれ**は信徒に対してご褒美を何倍にもする、最善のご褒美を授けるお方であり、最善の結果を与えてくれるお方。

(45)使徒よ、現世に惑わされている者たちに、例を挙げよ。現世は消滅し、すぐに終わってしまうものであり、**われら**が天から降らせる雨のようなもの。雨によって地面に植物が生えて成長するが、それはやがて朽ち果て、風によって方々に散らかされてしまい、地面は元通りになる。アッラーは全てのことがお出来であり、不可能なことなどない。お望みの者を生かし、お望みの者を消滅させる。

本諸節の功徳:

●信仰者は富裕な不信仰者の権勢の前に、惨めであるべきではない。むしろ助言し、アッラーへの信仰、その唯一性の承認、その恩恵の感謝へと導かなければならない。

●ムスリムは、財産や子供など何か気に入るものがあったら、「マーシャー・アッラー(これはアッラーが望んだこと)。アッラーの他にはいかなる力も属さない」と言って、その恩恵を恩恵の主に結びつけるべきである。

●アッラーが僕によいものを望む時、現世での罰を早めることがある。

●財産が反抗や不信仰の原因となっている時、その財産の消滅を祈ることは合法である。

ٱلۡمَالُ وَٱلۡبَنُونَ زِينَةُ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَاۖ وَٱلۡبَٰقِيَٰتُ ٱلصَّٰلِحَٰتُ
خَيۡرٌ عِندَ رَبِّكَ ثَوَابٗا وَخَيۡرٌ أَمَلٗا ٤٦ وَيَوۡمَ نُسَيِّرُ ٱلۡجِبَالَ وَتَرَى
ٱلۡأَرۡضَ بَارِزَةٗ وَحَشَرۡنَٰهُمۡ فَلَمۡ نُغَادِرۡ مِنۡهُمۡ أَحَدٗا ٤٧ وَعُرِضُواْ
عَلَىٰ رَبِّكَ صَفّٗا لَّقَدۡ جِئۡتُمُونَا كَمَا خَلَقۡنَٰكُمۡ أَوَّلَ مَرَّةِۭۚ بَلۡ زَعَمۡتُمۡ
أَلَّن نَّجۡعَلَ لَكُم مَّوۡعِدٗا ٤٨ وَوُضِعَ ٱلۡكِتَٰبُ فَتَرَى ٱلۡمُجۡرِمِينَ
مُشۡفِقِينَ مِمَّا فِيهِ وَيَقُولُونَ يَٰوَيۡلَتَنَا مَالِ هَٰذَا ٱلۡكِتَٰبِ
لَا يُغَادِرُ صَغِيرَةٗ وَلَا كَبِيرَةً إِلَّآ أَحۡصَىٰهَاۚ وَوَجَدُواْ مَا عَمِلُواْ
حَاضِرٗاۗ وَلَا يَظۡلِمُ رَبُّكَ أَحَدٗا ٤٩ وَإِذۡ قُلۡنَا لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ ٱسۡجُدُواْ
لِأٓدَمَ فَسَجَدُوٓاْ إِلَّآ إِبۡلِيسَ كَانَ مِنَ ٱلۡجِنِّ فَفَسَقَ عَنۡ أَمۡرِ رَبِّهِۦٓۗ
أَفَتَتَّخِذُونَهُۥ وَذُرِّيَّتَهُۥٓ أَوۡلِيَآءَ مِن دُونِي وَهُمۡ لَكُمۡ عَدُوّۢۚ
بِئۡسَ لِلظَّٰلِمِينَ بَدَلٗا ٥٠ ۞ مَّآ أَشۡهَدتُّهُمۡ خَلۡقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِ وَلَا خَلۡقَ أَنفُسِهِمۡ وَمَا كُنتُ مُتَّخِذَ ٱلۡمُضِلِّينَ عَضُدٗا
٥١ وَيَوۡمَ يَقُولُ نَادُواْ شُرَكَآءِيَ ٱلَّذِينَ زَعَمۡتُمۡ فَدَعَوۡهُمۡ
فَلَمۡ يَسۡتَجِيبُواْ لَهُمۡ وَجَعَلۡنَا بَيۡنَهُم مَّوۡبِقٗا ٥٢ وَرَأَى ٱلۡمُجۡرِمُونَ
ٱلنَّارَ فَظَنُّوٓاْ أَنَّهُم مُّوَاقِعُوهَا وَلَمۡ يَجِدُواْ عَنۡهَا مَصۡرِفٗا ٥٣

(46)財産と子供は現世を美しく飾るものだが、来世で役立つ財産は、アッラーが望む形で費やされたもののみ。しかしアッラーに喜ばれる言動こそは、現世での全ての飾りに優るご褒美であり、人間が望む最良のものである。現世の飾りは消失するが、アッラーに喜ばれる言動は永遠のものだからだ。

(47)**われら**が山々をその場所から移動させ、山々・草木・建築物が消失したことで地面が露わになる日のことを思い出せ。**われら**は全ての被造物を召集し、誰も復活を免れる者はいない。

(48)人々は主の前に列をなして並ばされ、清算を受ける。そして言われる。「あなたがたは**われら**が最初に創造した時のように、裸足で、裸で、割礼されていない状態で、一人ずつ**われら**のところにやって来た。あなたがたは復活することなどなく、**われら**があなたがたの行いに報いる時間と場所を設けることなどもない、と考えていたのだ。」

(49)そして行いの帳簿が置かれる。それを右手で受け取る者もいれば、左手で受け取る者もいる。人間よ、あなたは不信仰者たちが、そこに記されていることを恐れるのを見る。かれらは不信仰や罪などの行いをしたことを知っているからである。かれらは言う。「わたしたちの災難よ！大きな行いも小さな行いも、全て記録されているこの帳簿は、何ということだろう？」かれらは、現世で自分たちが行った罪がはっきりと記されているのを見る。使徒よ、主は誰にも不正を行わない。罪もないのに罰したり、服従行為を行った者のご褒美を減らしたりすることもないのだ。

(50)使徒よ、思い出せ。**われら**が天使たちに「アーダムに挨拶のサジダ（平伏）せよ」と言った時のこと。かれらは主の命令に従い、全員サジダしたが、イブリースだけは別だった。かれは天使ではなくジンであり、高慢にもサジダを拒んで、主の服従から脱した。人々よ、それなのにあなたがたは**われ**をよそに、敵であるかれとその子孫たちを保護者とするのか？敵を守護者とするとは、どういうことか？アッラーの代わりに、悪魔を守護者とする不正者たちの行いの、醜さよ。

(51)**われ**をよそにかれらが保護者とした者たちは、あなたがたと同様の僕である。**われ**はかれらを、天の創造にも地の創造にも立ち合わせはしなかった。いや、それらの創造の際、かれらはそもそも存在してはいなかったのだ。また、**われ**はかれらの創造にも、お互いを立ち合わせなかった。**われ**は創造と采配において唯一なのであり、人間とジンからなる、（人々を）迷わせる悪魔を助力者とはしなかった。**われ**は助力者を必要としない。

(52)使徒よ、審判の日のことをかれらに思い出させよ。その時アッラーは、現世で多神を行っていた者たちに言う。「あなたがたを助けてくれるよう、あなたがたが**われ**の共同者だと主張していた、わが共同者たちを呼んでみよ。」かれらは呼ぶが、それらが呼びかけに応じることも、助けてくれることもない。**われら**は崇拝者たちにも、崇拝されていた者たちにも、同様に破滅を与える。それが地獄である。

(53)多神教徒たちは地獄を目にし、自分たちがそこに入り、そこからの逃げ場所がないことを確信する。

本諸節の功徳:

●僕は永遠に残る善行を多く行うべきである。それは来世まで残る、言動によるあらゆる善行のことである。
●僕は審判の日の恐怖を思い出し、その日のために行わなければならない。それはその恐怖から逃れ、天国とアッラーのお喜びを勝ち取るためである。
●アッラーは、創造の始めにおいて天使たちにアーダムに対する挨拶と栄誉のサジダを命じることで、アーダムと人類全般に栄誉を与えた。
●悪魔を敵としなければならない。

وَلَقَدْ صَرَّفْنَا فِي هَٰذَا الْقُرْآنِ لِلنَّاسِ مِن كُلِّ مَثَلٍ ۚ وَكَانَ
الْإِنسَانُ أَكْثَرَ شَيْءٍ جَدَلًا ﴿٥٤﴾ وَمَا مَنَعَ النَّاسَ أَن يُؤْمِنُوا
إِذْ جَاءَهُمُ الْهُدَىٰ وَيَسْتَغْفِرُوا رَبَّهُمْ إِلَّا أَن تَأْتِيَهُمْ سُنَّةُ
الْأَوَّلِينَ أَوْ يَأْتِيَهُمُ الْعَذَابُ قُبُلًا ﴿٥٥﴾ وَمَا نُرْسِلُ الْمُرْسَلِينَ
إِلَّا مُبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ ۚ وَيُجَادِلُ الَّذِينَ كَفَرُوا بِالْبَاطِلِ
لِيُدْحِضُوا بِهِ الْحَقَّ ۖ وَاتَّخَذُوا آيَاتِي وَمَا أُنذِرُوا هُزُوًا ﴿٥٦﴾
وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن ذُكِّرَ بِآيَاتِ رَبِّهِ فَأَعْرَضَ عَنْهَا وَنَسِيَ
مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ ۚ إِنَّا جَعَلْنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ أَكِنَّةً أَن يَفْقَهُوهُ
وَفِي آذَانِهِمْ وَقْرًا ۖ وَإِن تَدْعُهُمْ إِلَى الْهُدَىٰ فَلَن يَهْتَدُوا إِذًا
أَبَدًا ﴿٥٧﴾ وَرَبُّكَ الْغَفُورُ ذُو الرَّحْمَةِ ۖ لَوْ يُؤَاخِذُهُم بِمَا كَسَبُوا
لَعَجَّلَ لَهُمُ الْعَذَابَ ۚ بَل لَّهُم مَّوْعِدٌ لَّن يَجِدُوا مِن دُونِهِ
مَوْئِلًا ﴿٥٨﴾ وَتِلْكَ الْقُرَىٰ أَهْلَكْنَاهُمْ لَمَّا ظَلَمُوا وَجَعَلْنَا
لِمَهْلِكِهِم مَّوْعِدًا ﴿٥٩﴾ وَإِذْ قَالَ مُوسَىٰ لِفَتَاهُ لَا أَبْرَحُ حَتَّىٰ
أَبْلُغَ مَجْمَعَ الْبَحْرَيْنِ أَوْ أَمْضِيَ حُقُبًا ﴿٦٠﴾ فَلَمَّا بَلَغَا مَجْمَعَ
بَيْنِهِمَا نَسِيَا حُوتَهُمَا فَاتَّخَذَ سَبِيلَهُ فِي الْبَحْرِ سَرَبًا ﴿٦١﴾

(54) **われら**はムハンマドに下したこのクルアーンで、教訓を得られるよう数多くのたとえを明らかにした。だが、人間(特に不信者)は、不当な議論をけしかけようとするばかりである。

(55) 反抗的な不信者とムハンマドがもたらしたものを信じるのを分け隔て、彼ら自身と自分たちの罪をアッラーに赦し乞いするのを分け隔てるのは、説明が足りなかったからだった。だがクルアーンではいくつものたとえが挙げられ、明らかな証がもたらされた。そのうえで彼らをかたくなに乞わせなかったのは、彼ら以前の民へ懲罰が下されたことや彼らが約束された懲罰への反抗だったのである。

(56) **われら**が使徒を遣わすのは、信仰と忠誠の民へ吉報をもたらす者として、不信仰と違反の民をおびやかす者としてのみである。彼らに人々を導きへと向かわせられるような心を左右する力があるわけではない。明らかな証拠を前にアッラーとその使徒たちを拒む者は反抗し、ムハンマドに下された真理を虚偽で覆そうとし、クルアーンや恐ろしい警告を馬鹿にして嘲るのである。

(57) 主の様々な印を思い起こさせられながらも、懲罰の警告を意に止めて振り返ることなく背を向け、不信仰や違反行為を重ねながらも悔い改めることなく自分の行いを忘れてしまう者以上に、ひどい不義をなす者はいない。こうした者たちの心には、**われら**はクルアーンの理解を妨げる覆いをかけ、耳を塞いでしまうだろう。そうなれば、もはや彼らは受け入れの聴き方で聴くことはできず、心が覆われ、耳が塞がれてしまっているかぎり、あなたが彼らを信仰へといざないかけても、それに応えることは決してないだろう。

(58) 預言者が彼を嘘つき呼ばわりする者たちに懲罰が降りかかるのを急かさないように、アッラーは彼に言われた。「使徒よ、あなたの主は悔い改めた僕たちの罪をよく赦してくださるお方であり、すべてに広がるお慈悲の持ち主である。そのお慈悲から、違反者がひょっとすると悔い改めるかもしれないと猶予を与えられる。もし万が一、至高なる**かれ**がそうした反抗者を罰せられるなら、この世での彼らへの懲罰を急かしただろう。だが**かれ**は寛容で慈悲深いお方であり、彼らが悔い改められるよう懲罰を遅らせる。むしろ彼らには、悔い改めないならそれはそれで不信仰と拒絶が許される時と場所が与えられるが、**かれ**の他には逃げどころはどこにもないのである。」

(59) あなたたちから近いところにあるその村は、フードやサーリフ、シュアイブの村のようであり、**われら**は彼らが不信仰と違反で己をあざむいた時に彼らを滅ぼし、その殲滅には特定の時間を設けたのである。

(60) 使徒よ、ムーサーが召使のユーシャウ・ビン・ヌーンに言った時のことを思い起こせ。「二つの海が交わるところまで、あるいは教えを乞う敬虔な信者と会えるまで長い間歩き続けよう。」

(61) そうして二人は歩き続け、二つの海が交わるところまで来ると、糧としていた魚のことを忘れてしまった。だがアッラーはその魚を蘇らせられ、それは水の届かない海底トンネルを行ったのである。

本諸節の功徳:

●クルアーンは偉大かつ荘厳で包括的である。そこには、役立つ知識や永遠の幸せ、悪いことから守ってくれる全ての道へと通じる道しるべがある。
●真理を否定して議論する者の存在を真理の明瞭さと虚偽・退廃の明確さを示す最大のきっかけとされたのは、アッラーの英知と慈悲である。
●本諸節には、真理を知った後でそれを離れる者がその後真理と引き離されてしまい、二度と導かれなくなってしまうという脅しの意味が込められており、その戒めとしての意義は大きい。
●知識の徳とそれを求めて旅することの徳。たとえ遠方にまで出向くことになったとしても、徳高い人や知者と会うのを生かそうとすることの徳。
●フートとは大小の魚を意味する。クルアーンの中に「魚」という言葉は出てこないが、登場するのは「フート」や「ヌーン」「ラハム・タリー(新鮮な肉)」という語である。

فَلَمَّا جَاوَزَا قَالَ لِفَتَىٰهُ ءَاتِنَا غَدَآءَنَا لَقَدۡ لَقِينَا مِن سَفَرِنَا
هَٰذَا نَصَبًا ﴿٦٢﴾ قَالَ أَرَءَيۡتَ إِذۡ أَوَيۡنَآ إِلَى ٱلصَّخۡرَةِ فَإِنِّي نَسِيتُ
ٱلۡحُوتَ وَمَآ أَنسَىٰنِيهُ إِلَّا ٱلشَّيۡطَٰنُ أَنۡ أَذۡكُرَهُۥۚ وَٱتَّخَذَ سَبِيلَهُۥ
فِي ٱلۡبَحۡرِ عَجَبًا ﴿٦٣﴾ قَالَ ذَٰلِكَ مَا كُنَّا نَبۡغِۚ فَٱرۡتَدَّا عَلَىٰٓ ءَاثَارِهِمَا
قَصَصًا ﴿٦٤﴾ فَوَجَدَا عَبۡدًا مِّنۡ عِبَادِنَآ ءَاتَيۡنَٰهُ رَحۡمَةً مِّنۡ عِندِنَا
وَعَلَّمۡنَٰهُ مِن لَّدُنَّا عِلۡمًا ﴿٦٥﴾ قَالَ لَهُۥ مُوسَىٰ هَلۡ أَتَّبِعُكَ عَلَىٰٓ أَن
تُعَلِّمَنِ مِمَّا عُلِّمۡتَ رُشۡدًا ﴿٦٦﴾ قَالَ إِنَّكَ لَن تَسۡتَطِيعَ مَعِيَ
صَبۡرًا ﴿٦٧﴾ وَكَيۡفَ تَصۡبِرُ عَلَىٰ مَا لَمۡ تُحِطۡ بِهِۦ خُبۡرًا ﴿٦٨﴾ قَالَ
سَتَجِدُنِيٓ إِن شَآءَ ٱللَّهُ صَابِرًا وَلَآ أَعۡصِي لَكَ أَمۡرًا ﴿٦٩﴾ قَالَ
فَإِنِ ٱتَّبَعۡتَنِي فَلَا تَسۡـَٔلۡنِي عَن شَيۡءٍ حَتَّىٰٓ أُحۡدِثَ لَكَ مِنۡهُ ذِكۡرًا
﴿٧٠﴾ فَٱنطَلَقَا حَتَّىٰٓ إِذَا رَكِبَا فِي ٱلسَّفِينَةِ خَرَقَهَاۖ قَالَ أَخَرَقۡتَهَا
لِتُغۡرِقَ أَهۡلَهَا لَقَدۡ جِئۡتَ شَيۡـًٔا إِمۡرًا ﴿٧١﴾ قَالَ أَلَمۡ أَقُلۡ إِنَّكَ
لَن تَسۡتَطِيعَ مَعِيَ صَبۡرًا ﴿٧٢﴾ قَالَ لَا تُؤَاخِذۡنِي بِمَا نَسِيتُ وَلَا
تُرۡهِقۡنِي مِنۡ أَمۡرِي عُسۡرًا ﴿٧٣﴾ فَٱنطَلَقَا حَتَّىٰٓ إِذَا لَقِيَا غُلَٰمًا فَقَتَلَهُۥ
قَالَ أَقَتَلۡتَ نَفۡسًا زَكِيَّةًۢ بِغَيۡرِ نَفۡسٖ لَّقَدۡ جِئۡتَ شَيۡـًٔا نُّكۡرًا ﴿٧٤﴾

(62)その場所を越えると、ムーサーは召使に言った。「昼食にしてくれ。長旅で疲れ果ててしまった。」

(63)少年は言った。「私たちが岩に避難したときに何が起きたと思いますか？魚のことをお伝えするのを忘れてしまいましたが、悪魔がそれを忘れさせたのです。魚は生きていて、海への道を驚かれながら行ったのでした。」

(64)ムーサーは召使に言った。「それこそ私たちが願ったこと。それこそ敬虔な僕の場所の印だ。」そうして二人は、迷子にならないように自分たちの足跡を辿りながら岩のところまで戻り、そこから魚の入り口にたどり着いた。

(65)二人が魚を見失ったところまで来ると、**われら**の僕たちの中のある僕に出くわした。(それがハディルである)**われら**は彼に慈悲を与え、**われら**のもとより、この物語が示唆するような人間が知ることのない知識を授けた。

(66)ムーサーは彼に愛想よく謙虚に言った。「お供しますので、真理への正しいお導きである、アッラーがあなたにお授けになった知識を教えていただけますでしょうか。」

(67)ハディルは言った。「あなたは私の知識に基づいて行うことに耐えられないでしょう。あなたが知ることには合わないからです。」

(68)「あなたは自分の知る範囲で判断するのですから、何が正しいかがわからない行いを見て、どうやって耐えられましょうか。」

(69)ムーサーは言った。「アッラーがお望みなら、きっとあなたは私があなたのする行いを見てもあなたに忠実に従い続け、あなたの命じることに背くことなく辛抱強いことがわかるでしょう。」

(70)ハディルがムーサーに言った。「もしあなたが私に付いて来るなら、私が事の解説を始めるまでは、私のすることについて尋ねないこと。」

(71)そうして二人は同意して海辺に行くと、舟を見つけた。ハディルを歓迎して船賃なしに乗せてもらうと、ハディルが舟の板を取り剥がして舟を沈めてしまった。ムーサーは言った。「船賃なしに乗せてくれた人たちの舟を沈めようとするなんて、なんということをするのですか!?」

(72)ハディルがムーサーに言った。「あなたは私がすることに耐えられないと言いませんでしたか？」

(73)ムーサーはハディルに言った。「うっかり約束を破ってしまったのをお許しください。お手柔らかにお願いいたします。」

(74)そうして二人が舟から降りると、海辺を歩いているうちにまだ成人を迎えていない少年が別の子どもと遊んでいた。ハディルがその少年を殺してしまったので、ムーサーは言った。「未成年の子供という清らかな命を何の罪もなしに殺めるだなんて、なんと酷いことをするのですか!?」

本諸節の功徳:

●目的遂行のためにも、使用人は賢く利発で臨機応変に対応できる人が好ましい。
●支援は命じられたことを実践するその度合いに応じて与えられ、唯一の神のご命令に従う人が得られるお助けは、そうでない人とは異なる。
●教えを乞う人の教師への礼節。教えを乞う人は、その話し方においても教師に対してより丁寧であるべきである。
●失念は咎めの対象にはならず、責任を追及されることにもならず、規定にも当てはまらない。
●知識人が自分の得意としない分野について、たとえ全体的には自分より優れた実力を有さない人であれ、その道の専門家に学ぶことの意義。
●知識やその他の恵みを至高のアッラーからの恩恵として認識し、感謝すること。